

『古今要覧稿』『庶物類纂図翼』 絵図細目

氏家幹人

本稿は、屋代弘賢（一七五八—一八四一）が編纂した『古今要覧稿』および戸田祐之が描いた葉草図集『庶物類纂図翼』に掲載されている絵図の細目である。

屋代弘賢は幕臣。その経歴については前号（『北の丸』三九号）で述べたので、ここではふれない。『古今要覧稿』とは、国学者で蔵書家だった（書家、歌人としても知られていた）屋代弘賢が、天明年間（一七八一—八九）に編集を始めた分類体の百科全書である。神祇・姓氏・器財・草木・禽獸・服飾ほかに分類された各項目について、和漢の文献から関係記事を抄録し、あわせて精粗さまざまな絵図や解説を添えている。

そもそも弘賢はなぜ膨大な時間と労力（そして費用）が予想される『古今要覧稿』の編纂を志したのだろうか。寛政一〇年（一七九八）九月、四一歳のときにみずから記した「凡例」（国書刊行会『古今要覧稿』所収）の大意を意識してみよう。

およそ学問とは、和漢の知識を兼ね備え古今に通じていなければならない（「凡学和漢を兼古今に通ずるにあらざれば言にたらず」）。しかしそれは容易なことではない。人の才能には限りがあり、限らない書物を読み尽くすことはできないし、読破したとしてもその内

容を記憶できないだろう。いや、よしんば記憶したとしても、それは一個人の記憶に残るだけであって、後生に伝えられない。膨大な知識の持ち主で私が尊敬してやまない源筑州（新井白石）にしても、その知識に少なからぬ誤解が認められる。なぜか。それは我が国に「類書」（多くの文献から語句や事項の関連記事を集めて分類編集したもの）が存在しないからだ。事項や語句ごとにその起源や沿革などを記した「類書」が完成すれば、知識の不備や誤解は格段に改善されるはずである（「もし歴代の沿革を類聚して便覧に備へたらんには遺憾なきにちかゝるべし」）。

ところで「類書」を編纂するには、とりあえず才や学識が足りなくても問題は無い。求められるのは黙々と作業に没頭する一途な気持ち（「類書を作る力は才の拙も学識のたらざるも姑く措て唯孜々として編輯する一途にあり」）。だからこそ私は、この書を作る決心をしたのである（「これ我発憤して此書を作る所以なり」）。

屋代は、当初個人的な著述として資料収集や草稿の作成を行っていたが、寛政二年（一八〇〇）以来、幕府に援助を出願。文化七年（一八一〇）

によろやく官撰事業として編集の継続が認められ、以後、幕府から金三〇両（内訳は屋代本人への手当と助手四人分の賄料）が支給された。文化七年当時の助手として、荻原百助、黒沢松之助、後藤増之助、長尾仙助の名が記録されている（『品々御用被下物留』）。しかし作業が進むにつれ人手が不足したよつで、本稿で絵図細目を作成した弘賢旧蔵本『古今要覧稿』の二冊目、一八冊目、三四冊目、四七冊目、九七冊目、一二七冊目、一三八冊目、一五五冊目、一五八冊目、一六九冊目の各冊に、図画や校正、鈔録（抄録）、浄写等を担当した助手の姓名が、「総判」（主編者）である屋代弘賢（孫の通賢の場合もあり）と共に列挙されている。助手の人数は、それぞれ一〜一四名、うち二冊目に挙げられているのは次の人々である。

檜山坦齋義慎 岡田嘉右衛門忠貞（図画）
榊原猪右衛門長行 山本林蔵清任 松井鉄蔵
英信 三輪善太郎正賢（鈔録） 三田村藤五郎延語（校正） 石井内蔵之丞盛時（校正兼浄写） 岩崎源蔵常正（編修兼図画） 橋本藤太郎常彦（編修兼浄写） 栗原孫之丞信充（編修兼浄写） 屋代大郎弘賢（総判）

右のうち檜山義慎（一七七〇—一八四二）は書

画鑑定を業とし、『栄花物語系図』『花押譜』等の著がある。石井盛時（一七七八—一八五九）は嘉永四年（一八五二）に幕府の書物奉行になった好学者の。岩崎常正（一七八六—一八四二）は灌園の号で知られる幕臣の本草学者で、『本草図譜』ほか多くの著作をのこした。栗原信充も同じく幕臣で、百数十点の著作がある。博覧強記でとりわけ武器や馬具に詳しかった。ほかに日吉偉三郎徳夫、若菜三男三郎信孝、南條正之助近行、志村愛助知孝、大河戸晋平儀成等々が作業に加わっており、『古今要覧稿』が、屋代弘賢を中心に多くの門人や関係者の助力を得て編纂された様子がうかがえる。

『古今要覧稿』は、文政四年（一八二二）一月から天保一三年（一八四二）二月まで、計四五回、冊が成るごとに幕府に献上され、その冊数五六〇に達した（『古今要覧稿調進目録』）。これらの献上本は、しかし天保一五年（一八四四）五月の江戸城本丸の火災ですべて焼失。現在、当館のほか国立国会図書館、東京都立中央図書館等に伝本が所蔵されているが、それぞれに欠脱があり、完本は残っていない。

本稿は、当館内閣文庫が所蔵する屋代弘賢旧蔵本（請求番号 特六五 一）の絵図細目である。弘賢旧蔵本は、明治一三年（一八八〇）に内務省が購入。同二三年ころ同省から内閣文庫に移管されたと推定され、弘賢の蔵書印「温故堂文庫」「不忍文庫」が押されている。全一七八冊。当館では、これに我自刊我書の「古今要覧稿総目録」（明治一四年刊）を添え、全一七九冊として架蔵している（我自刊我書は、古書保存我自刊我書屋

が明治一三年から一七年にかけて刊行した全二二冊の叢書。『古今要覧稿』もその一部が翻刻されている。なお弘賢旧蔵本のほかに、当館は「浅草文庫」の蔵書印がある全四六七冊の写本（請求番号 二〇九 一一〇）を所蔵するが、両者の関係はさだかでない。

『古今要覧稿』の内容は、明治三八年から同四〇年にかけて国書刊行会から刊行された『古今要覧稿』（全六冊）によって早くから概要が知られてきた。しかし国書刊行会の翻刻では、挿絵の多くが省略され、彩色図も掲載されていない。弘賢旧蔵本に描かれた二千数百点の絵図の細目の作成はおそらく初めての試みであり、本稿は、さまざまな分野の研究に裨益すると確信する。

*

『庶物類纂図翼』は、幕臣（旗本）戸田祐之（通称は要人）が描いた薬草図集。寛政重修諸家譜によれば、祐之は、延享元年（一七四四）に家を継ぎ書院番士となるが、同四年に書院番を辞し、安永八年（一七七九）八月六日に五六歳で没している。

『寛政重修諸家譜』にはまた、「安永八年四月十日これよりさき祐之本草綱目に載るところの品物を辨論し、其形状を図し、すべて二十七巻及び別録一卷庶物類纂図翼と題す。浚明院殿の仰によりてこの書をたてまつりしかば賞せられて物をたまふ」とあり、『庶物類纂図翼』の作成および同書が江戸城の紅葉山文庫に収められた経緯が記されている。すなわち中国明代に著された『本草綱目』に掲載されている薬草の図を描き、別録（添書）一卷と合わせた二八巻を『庶物類纂図翼』と名付

け、浚明院殿（一〇代将軍徳川家治）の命で献上したところ、褒美の品を頂戴したといつのである。同書の献上と褒賞は祐之にとつて大変名譽なことだったにちがいない。ところが彼はその後四ヶ月足らずで絶命してしまう（当時、死亡日は実際より遅れて届けるのが普通だったから、祐之の死亡日は八月六日より前だったかもしれない）。

『庶物類纂図翼』が紅葉山文庫に収納された事情は、最終冊の「庶物類纂図翼添書」により詳しく記されている。その内容を要約すれば。

安永七年（一七七八）四月、小普請組の戸田要人（祐之）が、薬草の図二〇巻余（「薬草之図式拾巻余」）を將軍に献上したいと願い出、懇意の石谷淡路守（名は清島、勳定奉行で田安家の家老を兼務。翌安永八年四月一五日に留守居に転じた）を介して、うち一卷を「奥向」に差し上げました。

側衆の稲葉越中守（名は正明）は、水谷但馬守（名は勝富、小納戸頭取）に、この薬草図を私ども、すなわち植村左源次・植村左平太・田村元長の三人に見せ、薬草図がはたして有用であるかどうか（「御用二相立候書二候哉」）調査させるよう命じました。

薬草図の調査を担当した三人について、簡単に触れておこう（そもそも「添書」は、この三人が連名で提出したものである）。植村左源次（名は政辰）は、八代將軍吉宗の命で幕府採薬使として日本各地で薬草の調査を実施した植村左平次政勝（二六九五—一七七七）の子で、駒場御薬園預を

経て、当時は小石川御薬園奉行の次席だった。植村左平太（政養）はその子で、明和八年（一七七―）に駒場御薬園預の見習となり、その後、父に従って諸国で薬草を調査、あわせて朝鮮人參の増殖に従事した。田村元長は、著名な本草学者田村藍水（一七一八―七六）の子で、名は善之、号は西湖ほか。医師であると同時に本草学者で、ちに幕府の製薬所の監督を務めている。つまり三人は、本草学（漢方の薬物学）の専門家にほかならなかった。稲葉正明は、戸田祐之の薬草図集の学術的価値を厳密に吟味させた上で、献上を認めるべきか否か、判断しようとしたのである。「添書」の要約を続けよう。

さて、三人（植村左源次・左平太・田村元長）で熟覧したところ、薬草図集には本草（『本草綱目』であろう）の記述と一致しないところも見つかりました。その箇所を訂正したうえで、すでに將軍家の紅葉山文庫にある『庶物類纂』の添付資料（参考図集）として収蔵すれば、薬草の形状を知りたい際に有用でしょうと申し上げました。

『庶物類纂』は、三五九〇種の動植物・鉱物を二六綱目に分類した本草博物学の書。はじめ加賀藩主前田綱紀の命で稻生若水が編纂に着手し、両者の没後、八代將軍徳川吉宗が丹羽正伯に編纂を継続させ、延享四年（一七四七）に全一〇五四巻（四六五冊）が完成。紅葉山文庫に納められた。三人は、戸田祐之の薬草図は、挿絵を持たない『庶物類纂』の参考図集として価値がある旨を上

申したのだった。

淡路守から戸田祐之に対して、私どもも相談して形状が正確な箇所を描き改めたいうえで献上するよう申渡し、相談の末（訂正のうち）、残らず清書して図集が献上された次第です。表題は、『庶物類纂』に添付するにふさわしい参考図集ということで、『庶物類纂図翼』と名づけました。また従来漢名が付けられてはいるものの、漢名が本草と一致しない薬草図は、これを別録（『草本別録』上下）にまとめました。

『庶物類纂図翼添書』は、安永八年（一七七九）四月に提出された。作成者は前述のように植村左源次（政辰）、植村左平太（政養）、田村元長（善之）の三人である。

『庶物類纂図翼』は、『庶物類纂』と共に、平成八年に国の重要文化財に指定された。図は五二九点。いずれも精緻な筆で描かれ鮮やかな彩色が施されている。

【凡例】

『古今要覧稿』

絵図資料番号は、第一冊から最終冊まで、通し番号とした。

絵図の表題は原則的に原資料に従い、括弧内に適宜補足した。原資料に表題に相当する記述が無い場合は（無題）とした。

絵図が彩色図のときは、【彩】とした。判読できない箇所は とした。

『庶物類纂図翼』

表記例「甘草／甘草 俗名・阿万木（あまき）」は、図が描かれている表に「甘草」、裏に「甘草 俗名阿万木」と記されていることを示す。括弧内の「あまき」は、「阿万木」の読みを現代かなで記したものの、読み方が定かでない場合はこれを補記しなかった（以下、同）。なお「俗名」は漢名に対して日本名を言う。

絵図はすべて彩色図であるため、各図に【彩】と補記しない。

『古今要覽稿』 絵図細目

【第一冊】 神祇部

【第二冊】 神祇部

【第三冊】 神祇部

- 神社 殿 宮 祠 神籬 社
- 一 (無題) 社殿の図 (六種)

【第四冊】 姓氏部

すへ(据)判 草名 花押 押字

二 聖武天皇勅書 文詞略之

「勅」の字のみ。天平感宝元年

(七四九) 閏五月二十日

三 東大寺古文書 文詞略之

四 同連署

橘諸兄・藤原豊成・大僧都行信

五 戲鴻堂法帖 晋顧愷之書 女史箴真跡

顧愷之画

六 東大寺所藏定山境四至文書

「天平勝宝八歳(七五六)六月九

日良弁及辨官等ノ連署文書ノ裏ニ此

草名アリ、即良弁ノ良字」

七 弘法大師遺告真然大徳等状

承和二年(八三五)三月十五日 入

唐求法沙門空海

国判 藤原豊仲 伴広 藤原福麿

八 釈迦如来華判

草名書式

九 高橋家所藏文書

一〇 小山孝山文書

草名具名(名の下に花押を書く例など)

一一 藤貞幹藏長寛元年(一一六三)在地署

判

「売領地ノ券ナリ」

一二 東福寺所藏聖一国師度牒

承久元年(一一一九)己卯十月二十

日

一三 鎌倉報国寺所藏開祖天岸和尚度牒

弘安九丙戌年(一一八六)十一月八

日

正和二年(一一三三)四月八日

一四 撰津国上郡真上村在地判文書

文和元年(一一三二)二月十日

草名吉凶

一五 鶴岳八幡宮所藏源頼朝花押

一六 高野山金剛峯寺所藏同上花押

一七 出雲杵築大社所藏同上花押

元暦元年(一一八四)十月二十八日

一八 豊臣秀吉花押

女子草名

一九 続花押藪所載尼如大花押

二〇 経筒銘

「信心大法主昔散位宗 重房今沙

弥重仁女凡氏 建保三年(一一二五)

七月二十五日」

二一 藤貞幹所藏文書

建久元年(一一九〇)七月十四日売

地券也

女官三条加判

二二 水戸吉田薬王院所藏文書

応安六年(一一三七三)癸丑十一月七

日

比丘尼浄音

二三 弘賢所藏常子内親王御押

常子

二四 或人所藏信濃善光寺本願上人押字

妙誉

左文章名(左文の花押)

二五 東寺宝泉院所藏文書

康平二年(一一五九)己巳(己亥)

十二月日田券連署七人中二人左書

二六 東大寺温室施入帳

永久五年(一一一七)七月十五日連

署中一人左書

草名連辞

二七 梁園法帖

尊朝

尊純親王

【第五冊】 姓氏部

【第六冊】 姓氏部

新撰姓氏録

二八 朝鮮国図

【第七冊】 姓氏部

【第八冊】 姓氏部

【第九冊】 地理部

きた 段 まち 町

二九 きた 段

「きたとは長三十歩広十二歩にして、即三百六十歩の地をいふ」(日本書紀)。

「きた」は田畑の面積を測る単位。きた。段。「きた」の面積を示す図。

【第一〇冊】曆占部

【第一冊】歳時部

【第二冊】歳時部

玄猪 本名亥子餅 一名嚴重 けんてう 御
まいり切 御なり切

三〇 (亥子餅の)包み方の図 鴨脚

三一 (亥子餅を搗く)小白と杵(「中ほそ」)

三二 五色の餅の置き方

【第三冊】時令部

【第四冊】時令部

【第五冊】時令部

【第六冊】時令部

【第七冊】時令部

【第八冊】時令部

な(難)
三三 政事要略所載候子之図【彩】

三四 同 方相氏之図【彩】

節分
三五 諸門配置図(朱雀門ほか)

「政事要略」云、土牛陰陽式云、土牛童子像、大寒之日前夜半時、立於諸門

三六 (禁裏院中で節分の夜の豆打ちの)豆を入れた器とそれを載せる三方の図。

【第九冊】時令部

かとまつ 門松 しめなは 注連縄
三七 門松之図 土佐光長所画年中行事図朝鞆行幸

【彩】

三八 松売の図【彩】

「織田右府公掛画のよし」

三九 武家所藏松飾【彩】

英一蝶所画

【第二〇冊】時令部

くすたま 薬球
四〇 薬玉【彩】

四一 靈元院法皇御好続命纒

【第二一冊】時令部

あやめのこし 昌(菖)蒲輿
四二 雲図抄所載五月五日供菖蒲事

四三 藤井家調進図(五種)

「右図式は皇都藤井氏よりうつし

ちまき 糰

四四 ちまき【彩】

四五 和漢三才図会所載粽(二種)

【第二二冊】時令部

【第二三冊】時令部

たなはた祭
四六 雲図抄所載図式七月七日乞巧奠事

四七 知信記所載図式

四八 女房私記所載七夕に備ふる御硯調様

四九 禁裏院中年内々御儀式記所載図
「御硯調様広蓋二御硯石計七ツ御筆墨アリ」

五〇 後陽成院以来年中行事所載図
「広蓋に硯七面御筆七封楮葉如図盛之」

【第二四冊】時令部

【第二五冊】器財部

梓弓 木槻弓 檀弓 柘弓
五一 撰津国住吉社蔵蒔絵弓【彩】

五二 大安寺八幡宮宝物神功皇后御弓【彩】

五三 法隆寺宝物上宮太子弓【彩】

五四 鶴岡八幡宮宝物右大将頼朝卿弓【彩】

五五 壺井八幡宮宝物弓【彩】

五六 楠正成朝臣弓【彩】

河内国農人松村某蔵

ふせたけ弓

五七 能登守教経弓【彩】

伊予国三島神社宝物

- 五八 出雲国大社蔵弓【彩】
- 外竹弓 かまほこ弓 十万弓 腹真弓
- 五九 田村家蔵弓【彩】
- 六〇 陸奥国塩竈社人藤塚某蔵弓【彩】
- 六一 或家蔵弓【彩】
- 六二 弘賢所蔵弓【彩】
- 重藤弓
- 六三 重藤弓【彩】
- 伊勢家所伝
- 六四 伊予国三島社蔵弓図【彩】
- 本重藤弓
- 六五 武田右京大夫信豊朝臣弓
- 所蔵未詳
- 二所藤弓
- 六六 武田信豊弓図
- 六七 二所藤弓
- 吉田八左衛門所作云
- 三所藤弓
- 六八 本間山城守宗資三所藤弓
- 甲斐国山梨郡農家蔵
- 六九 尼子晴久三所藤弓
- 安芸国某郡農家所蔵

【第二六冊】器財部

- やなくひ 胡籬 箆
- 七〇 或家蔵やなくひ名所図
- 七一 ナグヒ図
- かけ緒 こしを
- 七二 尾張国熱田神社宝物柳箆かけを【彩】
- 七三 下総国香取神社宝物箆かけを【彩】
- 七四 黒ぬり古箆図所用かけを【彩】

【第二七冊】器財部

- 七五 一種古箆に付る所かけを【彩】
- 七六 伊勢家所伝古箆かけを図【彩】
- 七七 小笠原備前守持長弓矢名所記かけを【彩】
- 七八 同 むすひやう(二種)【彩】
- 七九 同 根緒のむすひやう【彩】
- えひら 箆
- 八〇 弘賢家蔵竹箆【彩】
- 背板損失
- つほやなくひ 壺胡籬
- 八一 (無題) つほやなくひの図(二種)【彩】
- ひきめ
- 八二 弓矢名所記所載引目名処図【彩】
- 八三 弓法私書所載暮目【彩】
- 八四 尾張国熱田八劍宮宝蔵暮目【彩】
- 大如図(実物大)
- 八五 犬追物聞書所載暮目【彩】
- 八六 山城国静原二宮山王社宝蔵暮目【彩】
- 八七 下野国那須温泉権現宝蔵暮目【彩】
- 相伝与市資隆矢 大如図
- 八八 七十一番職人尽所載暮目くり【彩】
- かりまた 狩俣之矢
- 八九 鎌工光重所造かりまた(二種)【彩】
- 九〇 同 後口人所造かりまた(二種)【彩】
- 九一 同 関三阿弥兼高所造かりまた(六種)【彩】
- 九二 同 口人所造かりまた(二種)【彩】
- 称関白形

【第二八冊】器財部

- しゅや 獵箭
- 九三 信濃国埴科郷農家所伝野箭【彩】
- 九四 同【彩】
- 大如図
- 九五 信濃国諏訪神社所蔵野箭【彩】
- 九六 同【彩】
- 大如図
- かふら矢
- 九七 法隆寺宝物鳴鏑【彩】
- 伝云上宮太子御物 大如図
- 九八 尾張国熱田神社宝物鳴鏑【彩】
- 九九 出雲国大社宝蔵鳴鏑(二種)【彩】
- つるまき
- 一〇〇 細川家蔵弦巻【彩】
- 一〇一 新羅三郎箆所付弦巻【彩】
- 所蔵未詳
- 一〇二 集古十種所載弦巻【彩】
- 一〇三 鎌倉八幡宮宝物兵庫鎖太刀所用弦巻【彩】
- 一〇四 多羅枝故実所載弦巻【彩】
- 一〇五 伴大納言絵詞所載弦巻【彩】
- 一〇六 加茂祭絵詞所載弦巻【彩】
- 一〇七 後三年合戦絵詞所載弦巻【彩】
- 一〇八 十界絵所載弦巻【彩】
- 一〇九 前九年絵詞所載弦巻【彩】
- 一一〇 一谷合戦絵所載弦巻【彩】
- 一一一 蒙古襲来絵詞所載弦巻【彩】
- 一一二 保元平治合戦絵所載弦巻(二種)【彩】
- 一一三 灌頂巻所載弦巻【彩】

ひめゆき 姫鞆

一一四 貞享写本太神宮宝物図所載姫鞆【彩】

かまのゆき 蒲鞆

一一五 (無題 蒲鞆の図)【彩】

かちゆき 歩鞆 歩叉同

一一六 古銅歩鞆

源弘賢藏依元様製

一一七 大和国内山永久寺塔頭徳藏院蔵

以搦本摹之

一一八 長崎某神社祭礼所用

一一九 酒井雅楽頭家老河合隼之助蔵

一二〇 大御番石川七左衛門蔵

一二一 信濃国屋代宿柿崎源左衛門所蔵

【第二九冊】器財部

ゆき袋

一二二 文安御即位調度図所載弓袋【彩】

一二三 応天門絵詞所載弓袋【彩】

一二四 武田家所伝弓袋【彩】

つつほ

一二五 武用弁略所載つつほの図

一二六 弓法私書所載つつほ名所図

一二七 弓法秘書所載つつほ

一二八 弓馬故実所載つつほ名所図

一二九 武田右京大夫信豊朝臣つつほ

若州遠敷郡山寺所蔵

一三〇 岡本信濃守弓書所載つつほ

一三一 写本本朝軍器考図式所載つつほ古制名

所之図【彩】

一三二 同 つつほ今制名所之図【彩】

一三三 同 所載上宮太子鞆之図【彩】

一三四 武用弁略所載つつほの図

たまはつき 玉箒

一三五 玉箒之図【彩】

東大寺正倉院御宝物之内

「世に高野箒といふ草の種類にて

東大寺境内にも生ずる草なり 其葉

をこきて玉を貫し物也」

かけ緒 こしお

一三六 小笠原備前守持長弓矢名所記云

一三七 或家蔵古胡籙かけ緒

一三八 下総国香取明神宝物古胡籙かけ緒

一三九 細川勝元朝臣胡籙かけ緒(図なし)

一四〇 天正十年写平(本力)胡祿図かけ緒

うけ緒

一四一 小笠原備前守持長弓矢名所記云

一四二 或家蔵古胡籙うけ緒(図なし)

上帯

一四三 天正十年写本やなくひ図上帯

一四四 或家蔵やなくひ上書

矢ほろ

一四五 弓矢具足図所載矢ほろ

【第三〇冊】器財部

つる袋

一四六 小笠原備前守持長袋日記所載弦袋

一四七 小笠原家蔵弦袋(三種)【彩】

萌木革・栗色革・赤革

伝云備前守入道浄元所用

矢くはり

一四八 尾張国熱田神社宝物柳箬矢くはり

一四九 鶴岡八幡宮宝物胡籙矢くはり

一五〇 狩詞記所載廿五矢さす図・同矢

一五一 今所考定矢くはり 一つはさめの図

一五二 同 二つはさめの図

一五三 同 三はさめの図

一五四 伊勢平蔵貞丈逆類箬図説云

矢たはね

一五五 尾張国熱田八劍宮神宝物柳箬所用矢たは

ね

一五六 同 軍器考図後篇玉箒所載むす形

一五七 新羅三郎義光所用箬矢たはね

一五八 或家蔵古箬矢たはね

一五九 細川勝元朝臣箬矢たはね

一六〇 尾張国熱田神社宝物柳箬矢くはり

一六一 鶴岡八幡宮宝物胡籙矢くはり

一六二 今所考定矢くはり 一つはさめの図

一六三 同 二つはさめの図

かうかい 櫛鬢刷

一六四 伊勢貞丈所蔵絵巻物八幡太郎義家朝臣

海老鞘巻短刀所附筭之図【彩】

一六五 同 楠正成卿短刀所附筭之図

一六六 集古十種所載会津家臣坂本覚兵衛蔵足

利尊氏公筭之図

大塔宮所蔵

一六七 同 相模国鎌倉在柄天満宮蔵刀所附筭

之図

一六八 同 平松家伝来竹筭之図

一六九 集古十種所載安芸国嚴島社蔵足利尊氏

(筭の図)

一七〇 同 義政公短刀所挿筭之図

一七一 伊勢貞丈著古実集所載鬘搔之図

【第三二冊】器財部

度ものさし

- 一七二 聖徳太子が法隆寺に奉納したと伝えられる象牙尺【彩】

寛政四年に弘賢が法隆寺で自ら模写したとある。

- 一七三 凝然国師小硯匣尺図【彩】

凝然国師は元亨元年（一一三二）に八二歳で遷化。

- 一七四 弘賢所持の百万塔の図

- 一七五 永承三種尺

「土御門家所伝鉄もて造れる三種の尺様あり 今八近江国栗太郡木内某か蔵となる」。裏に「人王七十年代

丁亥永承二 正月日」とある。永承二年は西暦一〇四七年。

- 一七六 法隆寺象牙尺

- 一七七 尺袋等の図

【第三三冊】器財部

量

- 一七八 法隆寺銅升

銘「重大廿六斤受一石四斗」

- 一七九 天正新制（新制升の大きさを明記した文書）

播州姫路野里村芥田五郎左衛門所持 「天正十八年正月、豊臣太閤升を改正せられしよし」

- 一八〇 慶長新製（家康が伏見在城のはじめに天正新製を改正したもの）伏見升

- 一八一 江戸升

酒井家蔵古升

- 一八二 興福寺南円堂油升

- 一八三 同寺東金堂升

- 一八四 薬師寺金伏升

- 一八五 長合升

大和国玉水駅南平尾村岩崎平兵衛所持の古升

- 一八六 武佐升

「あるひ八云、佐々木家の利制にして、近江国八十万石を百万石にせんとためなりと、いまたそのよる所をしらす」。美濃国不破郡今駅三輪氏蔵

- 一八七 彦根升

- 一八八 太陽庵升

尾張国杉田村妙光寺蔵の古升

- 一八九 大安寺古升

- 一九〇 新薬師寺升

- 一九一 春日目代米納升

- 一九二 般若寺マカリマチ升

- 一九三 南氏升

- 一九四 春日社神供升

- 一九五 薬師寺段銭升

南都薬師寺所用

【第三三冊】器財部

権 波賀理（はかり）

- 一九六 秤を用いる図・秤の図

- 一九七 法馬（秤の分銅）の図

- 一九八 針口の図

【第三四冊】器財部

鞍

- 一九九 東大寺八幡宮蔵鞍

- 二〇〇 熱田社飴馬鞍

- 二〇一 集古十種所載水晶地鞍

- 二〇二 東大寺宝物図所載御鞍【彩】

- 二〇三 志（信）貴山縁起所載鞍【彩】

- 二〇四 年中行事二宮大饗所載鞍【彩】

- 二〇五 春日権現験記画【彩】

- 二〇六 春日験記所載鞍【彩】

- 二〇七 法然上人絵伝所載鞍【彩】

- 二〇八 後三年記画【彩】

- 二〇九 石山縁起画【彩】

- 二一〇 六波羅行幸【彩】

- 二一一 鞍馬毘沙門縁起所載鞍【彩】

- 二一二 西行記所載鞍【彩】

- 二二三 東大寺縁起所載鞍【彩】

- 二二四 平家盛衰画【彩】

- 二二五 繫馬図【彩】

鞍名目（鞍の各部の名称）

- 二二六 伊勢家馬具記云鞍名処

- 二二七 吉良家弓法秘実云

- 鞍二 武家所用

- 二二八 鹿島神社所蔵頼朝御鞍

- 二二九 武蔵国御嶽山所蔵鏡鞍

- 二三〇 東山義政公鞍

- 会津家臣坂本覚兵衛所蔵

- 二三一 大和国信貴山本覚院所蔵楠正成御鞍

- 二三二 河内国観心寺中院所蔵楠正成御鞍

- 二三三 大塔宮鞍

- 二三四 古鞍

集古十種所載藏未詳

鞍三

近世鞍制作

二二五 大坪道禪作鞍

弘賢家藏

二二六 伊勢守貞宗作鞍

藏未詳

二二七 近藤寿俊家藏鞍

二二八 大森彦七鞍

集古十種所載藏未詳

二二九 鞍

集古十種所載藏未詳

二三〇 鞍

集古十種所載藏未詳

【第三五冊】器財部

水干鞍

二三一 雫抄所載水干鞍図

水野氏藏

二三二 勝野延年藏駿河守作鞍

勝野延年は尾張藩士で故実家。宝曆七年（一七五七）致仕。生没年未詳。

雑鞍 賤の鞍 荷鞍

二三三 結鞍 賤の鞍 荷鞍

弘賢家藏結鞍

二三四 大高兵糧入荷鞍

古製結鞍

二三五 新井筑後守墓本 集古十種引古墓本

荷鞍図

今所用

和鞍

二三七 年中行事二宮大饗絵和鞍【彩】

二三八 石山縁記（起）画和鞍【彩】

二三九 大和国奈良東大寺八幡宮藏唐鞍

鏡鞍

二四〇 （無題 鏡鞍の図）

銀鞍 白鞍 白覆輪

二四一 武蔵国足立郡伊興村心現寺藏白鞍【彩】

黒漆鞍 黒鞍

二四二 撰津国住吉社藏源義経朝臣鞍図【彩】

二四三 年中行事二宮大饗絵所載黒鞍【彩】

二四四 石山縁起所載黒鞍【彩】

二四五 一扁（遍）上人縁起絵黒鞍【彩】

二四六 太子伝絵黒鞍【彩】

二四七 春日権現御験記所載黒鞍【彩】

二四八 西行記所載黒鞍【彩】

布袋鞍

二四九 岡村備後守所蔵布袋鞍【彩】

【第三六冊】器財部

金覆輪鞍 黄覆輪鞍

二五〇 （無題 鞍の図）【彩】

蒔絵金覆輪鞍

二五一 （無題 鞍の図）【彩】

金覆輪白鞍

二五二 （無題 鞍の図）【彩】

水精地鞍

二五三 伊勢平藏貞丈所伝水精地鞍【彩】

亀甲地鞍

二五四 辻政也作亀甲地鞍【彩】

梨子地鞍

二五五 梨子地鞍【彩】

作者未詳伊勢貞重所伝

二五六 伊勢駿河守貞雅作鞍【彩】

唐鞍

二五七 同後輪（錯簡）

二五八 伊勢大神宮宝物唐鞍

二五九 東大寺八幡宝蔵唐鞍

二六〇 清朝所用鞍【彩】

二六一 朝鮮国所用鞍【彩】

二六二 琉球国所用鞍

二六三 昭陵六駿賛所載鞍

二六四 月山筆意探幽画

【第三七冊】器財部

鏝（くつばみ 轡と同）

二六五 伊勢兵庫頭貞宗云（各部位の名称）

二六六 馬法書云轡の名

二六七 （無題 武用弁略所載図か）

蒺藜銜 うはらくつわ

「そのかたち蒺藜の美に似たるによりて名付しものなり」

二六八 東大寺正倉院宝蔵蒺藜銜

二六九 袍の文の轡唐草

唐鞍銜

二七〇 （無題）

二七一 大和国東大寺八幡宮宝蔵唐鞍銜

二七二 尾張国熱田社宝蔵唐鞍轡

銀滅金

二七三 清朝所用銜

二七四 琉球国所用銜【彩】

唐鞍銜異形

二七五 寛政五年（一七九三）五月十四日甲

州八代郡米倉村於土居原堀地所得轡

鏡銜

二七六 古鏡轡

鉄地無文

二七七 鏡銜

二七八 長州一宮社藏唐轡

二七九 鏡轡

裏方木形有

二八〇 一谷合戦絵鏡銜図【彩】

二八一 二宮大饗絵鏡銜図【彩】

二八二 土蜘蛛冊子絵鏡銜図【彩】

二八三 小田某藏屏風画鏡銜図【彩】

二八四 古絵本鏡銜図擬加茂祭【彩】

【第三八冊】器財部

杏葉銜

二八五 本多甲馬所蔵杏葉鏡轡

木葉銜

二八六 集古十種所載平将門銜

二八七 南都興福寺勸修坊藏義経朝臣轡図

二八八 備前国上寺八幡宮所蔵佐々木盛綱銜

二八九 集古十種所載水野家藏銜

二九〇 古絵本木葉銜

二九一 集古十種所載古銜

二九二 武州御嶽権現社所蔵銜

二九三 伊勢内宮文殿所蔵銜

二九四 春日権現御験記絵銜図【彩】

二九五 繫馬図銜図

二九六 競馬絵銜図

二九七 大須麻四郎絵詞銜図【彩】

<>み銜 ふくみ銜

二九八 陸奥白川郡船田村堀地所得轡

農家藤七所蔵

二九九 肥後国飽田郡小金淵堀地所得轡図

寛政八年（一七九六）六月十一日附

中ヨリ得ルト云

三〇〇 肥後国菊池郡瀬戸村堀地所獲轡図

寛政七年（一七九五）田畠ヨリ出ト云

三〇一 曾我物語絵所載銜【彩】

三〇二 結城合戦絵詞所載銜【彩】

三〇三 六波羅合戦絵【彩】

三〇四 太子伝所載銜【彩】

三〇五 清水寺縁起図【彩】

出雲轡

三〇六 美濃国大井駅長国寺蔵根津是行銜図

三〇七 集古十種所載銜（三種）

所蔵未詳・明珍宗久作（「天下」明

珍）

三〇八 清水寺縁起所載銜【彩】

蜻蜓文銜

三〇九 蜻蜓文銜

大如図

【第三九冊】器財部

鐙

三一一 馬具寸法記所載鐙

三一二 武器図所載鐙

三一二 伊勢貞丈鐙説云

三峰・双笑（モロエミ）・片笑・無

笑（エミナシ）

大壺鐙

三二三 東大寺宝物図所載聖武天皇御鐙【彩】

三二四 甲斐国八代郡姥口村堀地所獲壺鐙図

大如図

三二五 大和国法隆寺蔵壺鐙図

三二六 大和国東大寺若宮八幡宮蔵鐙

三二七 紀伊国熊野新宮蔵鐙

三二八 年中行事二宮大饗所載壺鐙【彩】

三二九 法然上人絵詞所載壺鐙【彩】

唐鐙

三三〇 長門国一宮所蔵唐鐙

三三一 東大寺勸進所蔵唐鐙

三三二 東大寺八幡宮所蔵唐鐙

三三三 熱田社蔵唐鐙

三三四 弘賢家蔵唐鐙【彩】

三三五 松浦家蔵唐鐙【彩】

三三六 琉球国所用鐙【彩】

三三七 大（太か）子伝所載唐鐙【彩】

三三八 或家蔵古絵本所載唐鐙【彩】

舌長鐙

三三九 餉抄所載舌長鐙

三三〇 競馬図所載舌長鐙

半舌鐙

三三一 大和国東大寺勸進所蔵鐙図

三三二 年中行事二宮大饗絵所載半舌鐙【彩】

三三三 春日権現験記所載半舌鐙【彩】

木鐙

三三四 大和国東大寺若宮八幡宮蔵鐙

三三五 集古十種所載木鐙

武蔵鐙

三三六 弘賢家蔵武蔵鐙【彩】

三三七 岡村備後守所蔵武蔵鐙【彩】

三三八 東大寺勸進所蔵武蔵鐙【彩】

【第四〇冊】器財部

- 籠頭 鼻革
- 三三九 唐土籠頭図【彩】
- 三四〇 (無題)【彩】
- 鈎籠頭
- 三四一 伊勢因幡貞房所伝鎌羈図【彩】
- 麻籠頭
- 三四二 (無題)【彩】
- 三四三 (無題)【彩】
- 拍子
- 三四四 (無題)【彩】
- 三四五 (無題)【彩】
- 羈(したぐら) 下鞍 切付
- 三四六 今所用羈
- 唐切付
- 三四七 東大寺宝物図所載聖武天皇御羈
- 三四八 伊勢大神宮宝物図所載羈
- 三四九 春日社唐戸所画飭馬羈
- 三五〇 加茂祭絵詞所載羈
- 行騰切付
- 「和鞍に用ゆるものなり」
- 三五一 東大寺若宮八幡宮宝物羈【彩】
- 三五二 (無題)【彩】
- 三五三 (無題)【彩】
- 三五四 (無題)【彩】
- 三五五 聖武天皇行幸図に見えし(行騰の形)
- 鞍吧
- 三五六 伊勢大神宮宝物唐鞍二覆【彩】
- 三五七 (無題)【彩】
- 三五八 (無題)(透鞍覆図)【彩】
- 三五九 (無題)【彩】

- 三六〇 (無題)【彩】
- 三六一 (無題)【彩】
- 虎皮鞍覆 豹皮鞍覆
- 三六一 (無題)【彩】
- 毛氈鞍覆
- 三六三 (無題)

【第四一冊】器財部

- 馬甲
- 三六四 或家蔵馬甲【彩】
- 三六五 三輪善平正福家蔵馬甲【彩】
- 伝云大河内茂左衛門秀元遺物
- 三六六 佐橋左源太佳栄家蔵馬甲【彩】
- 鞞
- 三六七 東大寺若宮八幡宮宝物唐鞞【彩】
- 楚鞞
- 三六八 法然上人行状画所載楚鞞【彩】
- 三六九 荏柄天神縁起所載楚鞞【彩】
- 連着鞞
- 三七〇 東大寺若宮八幡宮宝物連着鞞【彩】
- 三七一 東大寺八幡宮縁起所載連着鞞【彩】
- 三七二 年中行事絵臨時客連着鞞【彩】
- 衢総鞞
- 三七三 東大寺若宮八幡宮宝物鞞【彩】
- 三七四 春日権現記衢総鞞【彩】
- 三七五 太子伝絵衢総鞞【彩】
- のりくつ(乗沓)
- 三七六 やあて
- 「的の代に沓を立る事」
- 三七七 本朝軍器器図所載馬上沓【彩】
- 三七八 本多甲馬家蔵【彩】

三七九 貞丈雜記云沓之図【彩】

【第四二冊】器財部

- 紫筋匂手綱
- 「將軍の用ひさせ給ふもの」
- 三八〇 伊勢因幡貞城所伝紫筋匂手綱【彩】
- 三八一 松岡辰方説紫筋匂手綱【彩】
- 赤根染手綱
- 三八二 伊勢加賀守貞直所染赤根染手綱【彩】
- 紫染引手際紫手綱
- 三八三 紫染引手際紫染手綱【彩】
- 梅しほり手綱
- 三八四 松岡辰方説梅しほり手綱【彩】
- 柿染手綱
- 三八五 松岡辰方説柿染手綱【彩】
- 褐色手綱
- 三八六 伊勢因幡所伝褐布手綱【彩】
- 三八七 軍陳(陣か)のたつな【彩】
- 豹文手綱 引手際豹文手綱
- 三八八 松岡辰方豹文手綱【彩】
- とり染手綱
- 三八九 伊勢因幡所伝とり染手綱【彩】
- 三九〇 細川家笠懸日記所載とり染手綱【彩】
- 三九一 弓馬聞書所載とり染手綱【彩】
- 三九二 松岡辰方説とり染手綱【彩】
- 浅黄手綱
- 三九三 伊勢因幡所伝手綱【彩】
- 杏葉
- 三九四 熊野新宮神宝図所載杏葉【彩】
- 三九五 熱田宮蔵唐鞍具杏葉【彩】
- 三九六 長門国一宮蔵杏葉【彩】

- 三九七 東大寺八幡宮蔵唐鞍具杏葉【彩】
- 三九八 伊勢大神宮白馬形杏葉【彩】
- 三九九 飾抄所載唐鞍具杏葉【彩】
- 四〇〇 春日社飾馬絵杏葉【彩】
- 四〇一 年中行事絵所載杏葉【彩】
「銀にて作れりとみえたり」
- 四〇二 加茂祭絵所載杏葉【彩】
「楚鞞に付たるさまなり」
- 四〇三 三才図会馴
- 四〇四 (無題 杏葉の図)【彩】
- 四〇五 三才図会儀制馴象の条
- 四〇六 古玉図譜荇葉図
- 四〇七 考古図に載たる博山爐の荇葉
- 四〇八 本草綱目図経の荇図
鞞かれひつけ 取付 物付 八子(はね)
「旅行に餉を餌袋にいれてこゝに結付る
よりかく名付たり」
- 四〇九 東大寺若宮八幡宮宝物八子図【彩】
- 四一〇 飾抄所載八子図
- 四一一 春日社唐鞍飾馬図所絵八子【彩】
- 四一二 曾我物語絵所載取付に餌袋付たる図
【彩】
- 四一三 繫馬絵所載取付【彩】
- 四一四 前九年合戦絵所載取付に首を付たる図
【彩】
- 四一五 取付をしほてに結付し図【彩】
- 四一六 堀田左京亮正衡所蔵黒鞍居木【彩】
しほて(鞍)
「前八胸懸をつけ後八尻懸をつくるため
のものなり」
- 四一七 東大寺若宮八幡宮所蔵小鞍【彩】
- 四一八 伊勢貞景口伝しほて寸法【彩】
- 四一九 曾我物語絵所載しほて【彩】
鏡鞍
- 四二〇 武蔵国御嶽社蔵鏡鞍【彩】
- 四二一 集古十種所載鏡四緒手【彩】
- 四二二 同【彩】
称饅頭形
- 四二三 尾張国熱田宮所蔵鏡鞍【彩】
朱漆鞭
- 四二四 熊野新宮宝物朱漆鞭【彩】
藤巻鞭
- 四二五 藤沢縁起所載塗鞭【彩】
藤鞭
- 四二六 賀茂競馬藤鞭
- 四二七 或家蔵大追物鞭
犬追物鞭
熊柳鞭
- 四二八 春日験記紀所載熊柳鞭
- 【第四三冊】器財部
- 四二九 東大寺若宮八幡宮宝物鐙粗・同力革・
鐙粗 力革
同鐙【彩】
鞞を鉸具にかけし図
- 四三〇 東大寺若宮八幡宮宝物鐙粗力革【彩】
- 四三一 古キ力革
貫鞞
- 四三二 伊勢因幡貞城所伝貫鞞図【彩】
- 四三三 年中行事絵二宮大饗貫鞞【彩】
- 四三四 春日権現験記絵虎皮貫鞞【彩】
- 四三五 六波羅行幸絵虎豹皮貫鞞【彩】
- 四三六 繫馬絵貫鞞【彩】
- 四三七 石山縁起絵貫鞞【彩】
腹帯 小腹帯
- 四三八 弓馬故実所載腹帯【彩】
一重腹帯
- 四三九 春日験記所載二重腹帯【彩】
- 四四〇 年中行事絵宮浦所載二重腹帯【彩】
- 四四一 依藤太絵詞所載二重腹帯【彩】
- 四四二 後三年合戦絵所載二重腹帯【彩】
- 四四三 太子伝絵所載二重腹帯【彩】
- 四四四 大須磨三郎絵所載二重腹帯【彩】
- 四四五 清水寺縁起絵所載二重腹帯【彩】
- 四四六 西行物語絵所載二重腹帯【彩】
- 四四七 前九年合戦絵所載二重腹帯【彩】
- 四四八 東大寺縁起所載二重腹帯【彩】
- 四四九 一扁(遍)上人縁起所載二重腹帯【彩】
藤沢寺
- 四五〇 石山縁起所載二重腹帯【彩】
- 四五一 曾我物語所載二重腹帯【彩】
- 四五二 六波羅行幸絵所載二重腹帯【彩】
- 四五三 春日験記所載二重腹帯【彩】
- 四五四 奥州三春一扁(遍)上人縁起所載二重
腹帯【彩】
- 四五五 法然上人画【彩】
- 四五六 江島縁起所載二重腹帯【彩】
- 四五七 鞍馬毘沙門縁起所載二重腹帯【彩】
あかとり
- 四五八 伊勢因幡貞城家蔵古雛形
- 四五九 志(信)貴山縁起所載
- 四六〇 太子伝絵所載
- 四六一 土佐広周筆道成寺縁起所載あかとり

【彩】
四六二 江島縁起所載あかとり【彩】
四六三 愚案の趣を絵図につくる

【第四四冊】器財部

大緒 もとほし 小槌のを
四六四 養鷹秘抄所載条図
四六五 神平流鷹書所載条図
四六六 鷹道具図所載大緒之図
四六七 河野五郎左衛門通丸伝書所載図
経緒 せきを 尾繩 留を
四六八 養鷹秘抄所載経緒図
四六九 鷹道具図所載経緒
四七〇 河野五郎左衛門伝書所載
四七一 馴鷹架次第所載経緒繫の図
をき繩
四七二 養鷹秘抄所載置縄図
四七三 鷹道具書所載置縄図
四七四 河埜五郎左衛門伝書所載

【第四五冊】器財部

あしを あしかは(足革) 小あしを
四七五 新修鷹経所載脚絆図
四七六 神平流鷹書所載足革図
四七七 鷹経弁疑論所載足革図
四七八 荒井流鷹書所載諸流足革図
横沢流・小笠原流・祢津流・京形・
羽根田流・宇都宮流・両橋流
四七九 啓蒙抄所載足革図
弟鷹足革・兄鷹脚革・鶏脚革
四八〇 鷹道具図所載足革

四八一 同 大足革
四八二 同 下足革図
四八三 河野五郎左衛門伝書所載足革図
綴あし緒
四八四 鷹経弁疑抄所載綴足緒図
餌袋 糸ふくろ 生袋

餌籠 糸ふくろ 糸ふくろ ならしは うつ
せみ もぬけ

四八五 鷹口伝書所載餌袋図
四八六 養鷹秘抄所載餌袋図
四八七 神平流鷹書所載餌袋図
四八八 斎藤浅倉両家鷹書所載餌袋図
四八九 無名鷹書所載餌籠図
四九〇 鷹道具所載餌籠図
「竹箆也 糸ふくろともいふ」

餌合子 餌五器

四九一 鷹道具図所載餌器
四九二 鷹道具図所載餌直
水筒
四九三 鷹十卷書所載水筒図
四九四 鷹道具所載水筒図

「山鷹遣時用」

【第四六冊】器財部

ほこたれ
四九五 鷹道具図
四九六 無名鷹之書
鷹なぶり むち
四九七 外架
かりほこともいふ
四九八 文安鷹之抄ほこたれ

四九九 養鷹秘抄鷹ノふち(藤)

五〇〇 神平流鷹之書図ふち

五〇一 鷹経弁疑論之図鞭

五〇二 無名鷹之書所載鶏鞭

五〇三 鷹道具図所載鶏鞭

五〇四 鷹道具図所載鷹ナフリ

鈴 鈴押 すゝこ 鈴舟

五〇五 波多埜尚政鷹書所載鈴図

五〇六 河埜五郎左衛門通丸鷹書所載鈴図

五〇七 鷹道具書所載鈴図

鷹装束 鈴板 鼠緒

五〇八 日根埜標心鷹書所載鷹装束図

五〇九 鷹道具書所載鈴板二鼠緒付たる図

五一〇 新修鷹経所載鈴繫図

五一一 波多埜尚政鷹書所載鼠緒図

五一二 祢津神平鷹絵図所載鈴板図

五一三 波多埜尚政鷹書所載鈴板図

五一四 武用弁略所載鈴板図
御所成・東国形・大戸成

五一一 河埜五郎左衛門通丸鷹書所載鈴板図

五一六 鷹道具書所載鈴板図

本式装束

五一七 鷹装束書所載式装束図【彩】

ふくさ装束 小装束

五一八 鷹装束書所載ふくさ装束図【彩】

乱装束 糸装束

五一九 鷹装束書所載乱装束図【彩】

鶏冠装束 鳥かひ装束

五二〇 鷹装束書所載とさか装束図【彩】

かし鳥装束

五二一 祢津神平鷹絵図所載鶴装束図【彩】

五二二 鷹装束書所載かし鳥装束図【彩】
 養毛装束

五二三 鷹装束書所載養毛装束図【彩】

【第四七冊】器財部

狩杖 鷹飼杖 犬飼杖 勢子杖

五二四 養鷹秘抄所載狩杖図

五二五 斎藤浅倉両家鷹書所載犬飼かり杖の図

五二六 河野五郎左衛門通丸鷹書所載図
 鷹匠狩杖・勢子杖・犬飼狩杖

ひねり 上木 ひねりさほ さい

五二七 鷹経弁疑論所載捻図

五二八 吉田多右衛門鷹書所載ヒネリノ図

五二九 河野五郎左衛門通丸鷹書所載捻木図

五三〇 同 揚木図

さいはらひ

五三一 鷹経弁疑論所載さいはらひ図

五三二 日根野漂心鷹書所載催馬棧柄図

五三三 河野五郎左衛門通丸鷹書所載罪払図

五三四 鷹道具所載左以図

尾袋

五三五 日根野漂心鷹書所載尾袋図

【第四八冊】器財部

やまとこと 日本琴

五三六 調次第

五三七 調次第

五三八 安芸国厳島明神威倭琴図

さうのこと 箏

五三九 酒井雅楽頭姫路家蔵箏図

「号松風 嘉暦二年（一三三二）丁

卯五月戊午藤原資房卿於若狭国三方郡
 甘西郷奥堂寺而造之云

五四〇 安芸国厳島明神蔵箏図
 号法花

五四一 山城国本能寺蔵箏図
 「依勅号時雨 豊臣太閤侍女伊吹氏
 遺物」

五四二 山城国東山歌中山清閑寺蔵箏図
 伝云小督所愛箏

【第四九冊】器財部

琴 きんのこと

五四三 宋淳熙勅編（淳熙は一七四 八九）
 古玉図譜所載古玉大琴

五四四 古玉大琴

五四五 大和国法隆寺蔵琴図

五四六 会津家蔵菅公棊図（棊は琴の俗字）

五四七 紀伊殿家蔵琴図
 号冠古琴

五四八 水戸殿家蔵心越禪師将来琴図【彩】

【第五〇冊】器財部

さやまき つゝらさやまき

五四九 藤丸短刀【彩】

足利義昭公遺物 大坂商家所蔵

五五〇 鳩丸短刀【彩】

大坂商家所蔵

ゑびさやまき

五五一 源義経朝臣海老鞘巻【彩】

五五二 源義経朝臣鞘巻【彩】

木さやまき

五五三 箱根権現宝物紫檀柄鞘腰刀【彩】
 伝云曾我五郎所佩

五五四 千葉介常胤木鞘巻【彩】
 所在未詳

筑紫長刀

五五五 （無題）

五五六 西原按江所蔵長刀

五五七 河内国壺井八幡宮蔵薙刀

五五八 辻左近太郎薙刀

【第五一冊】器財部

ひをとし 紅梅をとし

五五九 岩井某家蔵甲冑威毛図所載ひをとし
 【彩】

五六〇 或函人（甲冑職人）説ひをとし【彩】

五六一 又一説ひをとし【彩】

小さくらをとし

五六二 安芸国厳島神社宝物小桜革威【彩】
 伝云小松内府甲冑

五六三 甲斐国山梨郡農家所蔵小桜革威【彩】
 伝云武田信虎朝臣甲冑

五六四 同 菅田神社宝物小桜革威【彩】
 伝云新羅三郎甲冑 或云武田家楯無

五六五 或説小桜革威（四種）【彩】

ふしなはめをとし

五六六 （無題）【彩】

五六七 山城国鞍馬山所蔵古甲冑【彩】

五六八 同 をとし革をひらきたる図【彩】

五六九 大和国添上郡村名不知農家所蔵甲冑威
 革【彩】

五七〇 飛騨国高山益田神社所蔵甲冑威革【彩】

五七一 甲斐国山梨郡三日市場農家所蔵甲青緘

革(二種)【彩】

しなかはをとし

五七二 山城国鞍馬山所蔵甲青緘革(二種)

【彩】

五七三 岩井某家蔵甲青威毛図所蔵しな皮(二種)

種)【彩】

五七四 土肥経平説品川【彩】

五七五 同 しなかはをとし異説(二種)【彩】

つのはなをとし

五七六 うのはなをとし【彩】

くれなゐすそこをとし

五七七 くれなゐすそこ【彩】

むらさきすそこをとし

五七八 むらさきすそこをとし【彩】

はたすそこをとし

五七九 はたすそこをとし【彩】

【第五二冊】器財部

はた

五八〇 撰津国天王寺蔵平行盛旗図

五八一 同 平清経旗図

五八二 同 貞平親王旗図

五八三 同 源満政旗図

五八四 同 赤松則祐旗図

五八五 同 足助次郎重範旗図

五八六 同 備後三郎高德旗図

五八七 井伊家蔵源義家朝臣旗図

五八八 熊谷次郎直実旗図(二種)

集古十種所蔵未詳

五八九 撰津国大坂商家岡野新次蔵赤松律師則

祐旗図

五九〇 撰津国多田院蔵源頼光朝臣旗図

五九一 大和国吉野郡賀名生郷和田村堀源次郎

家蔵後村上天皇所賜御旗図

五九二 河内国葛井寺蔵楠正成旗図

「非理法権天 正成」とあり

五九三 横瀬家蔵新田義貞朝臣旗図(四種)

五九四 毛利家蔵大内氏旗(二種)

五九五 本朝軍器考図式所蔵轟幡図【彩】

五九六 同 朱雀旗図【彩】

五九七 同 玄武旗図【彩】

五九八 同 白虎旗図【彩】

のほり旗 縫くるみ まねき

五九九 大和国吉野郡賀名生郷和田村堀源次郎

家蔵後醍醐天皇所賜御旗図

六〇〇 同 後村上天王(皇)所賜御旗図

六〇一 芳野山桜本坊所蔵後醍醐天皇御幡

六〇二 横瀬家蔵新田義貞朝臣旗図(二種)

六〇三 小畑助兵衛家蔵武田家旗図

六〇四 小笠原大膳大夫人道長時蔵巻物所蔵旗

(二種)

六〇五 和州吉野郡和田村民家蔵乳付旗図

【第五三冊】器財部

錦旗

六〇六 湯川某家蔵大塔宮錦御旗図

白旗 赤旗 黒旗 青旗 黄旗

六〇七 那須家蔵白旗図

六〇八 相模国鎌倉補陀羅伽寺蔵赤旗図

六〇九 平家赤旗図

志摩国五智村庄屋何某所蔵

旗紋

六一〇 武蔵国品川法蔵寺蔵楠正成旗紋図(三

種)

六一一 細川家臣大矢野某家蔵菊池家旗紋図

旗竿 手付竿

六一二 山城国久世郡宇治平等院蔵源三位頼政

棹図

六一三 小笠原大膳大夫人道長時所蔵巻物所蔵

乳付旗竿

旗袋 六一四 井伊家蔵源義家朝臣旗袋図

六一五 上野国新田後閑家蔵源義家朝臣旗袋

【第五四冊】器財部

あけはり 帷 幕 幄

六一六 大嘗会調度図所蔵幌【彩】

六一七 同 幄

六一八 後三年合戦図所蔵幕(三種)【彩】

六一九 勢州鈴鹿郡甲斐邨崇徳寺所蔵岡部六弥

太幕

六二〇 武用弁略所蔵幕名所

六一一 本朝軍器考図式所蔵幕図【彩】

とはり 幔

六二二 愚得随筆所蔵班幕【彩】

六二三 武用弁略所蔵幔幕図

六二四 本朝軍器考図式所蔵幔図【彩】

六二五 同 暖簾幕図【彩】

【第五五冊】器財部

たて 楯

六二六 内宮御神宝図所蔵楯【彩】

六二七 外宮御神宝図所載楯【彩】

六二八 鹿島神事所用楯【彩】

六二九 同 所絵(五種)(うち三種)【彩】

六三〇 大嘗会調度図所載楯

六三一 日蓮聖人註画讃所載楯

六三二 蒙古襲来画所載楯

六三三 武用弁略所載干図

六三四 本朝軍器考図式所載車楯図【彩】

六三五 和漢三才図会所載無敵神牌図

六三六 或家藏楯【彩】

相伝明珍式部紀宗介作

かいたて(搔楯) 歩楯

六三七 本朝軍器考図式所載歩楯図【彩】

ひしき楯 竹束

六三八 武用弁略所載竹把車仕懸図【彩】

六三九 武用弁略所載竹把繫仕懸図

【第五六冊】器財部

竹如意 大龍

六四〇 詩仙堂志所載竹如意図

「石川丈山か蔵せし所の珍奇物六

品のうちの二つ」

方竹刀

「一名忠孝全備竹 一名天下一品竹」

六四一 明延平鄭王国性爺成功所履竹刀図【彩】

宝鐸 銅鐸 阿育王塔鐸

「何の器といふこと詳ならずといへとも

音律の器なるへし」

六四二 明和九年(一七七二)五月遠江国佐野

郡長谷村堀地所獲

六四三 安永六年(一七七七) 月河内国郡寺

台村堀地所獲

「郡村帳を按ずるに寺台村みえす石

川郡に寺田村あり」

六四四 寛政四年(一七九二) 月三河国渥美

郡谷ノ口村堀地所獲(三種)

六四五 寛政七年(一七九五)十二月三河国額

田郡洞村堀地所獲

六四六 享和元年(一八〇二)八月遠江国白須

賀近山堀地所獲

六四七 享和元年(一八〇二)八月遠江国白須

賀宿堀地所獲

六四八 享和元年(一八〇二)遠江国白須賀宿

堀地所獲

六四九 文化十一年(一八一四)五月十七日播

磨国佐用郡下本郷村堀地所獲

六五〇 文政八年(一八二五)九月七日伊勢国

一志郡下川口村東風呂谷堀地所獲

六五一 播磨国宍粟郡葛生須賀村堀地所獲

六五二 上野国緑野郡落合村七輿山宗永寺境内

古墳所獲

六五三 大サ如図

弘賢所蔵

六五四 出所未詳 鈕を断て花瓶に造る

高田氏所蔵

六五五 出所未詳

谷文晁所蔵

六五六 出所未詳

山田安貞所蔵

六五七 出所未詳

大和国吉野山所蔵

出所未詳 伝云豊臣大閣源蔵に与ふ

る処なりと文書あり

六五八 越後国村上内藤家所蔵

出所未詳

六五九 北村平蔵所蔵

出所未詳

六六〇 阿育王所造釈迦如来真身設利宝塔【刊】

はとのつえ 鳩杖

「杖の首に鳩の形を施せしもの也 漢の

世に八十以上の老人に賜ひし所なり」

六六一 元板博古図所載漢鳩杖首鐲

依元様製

六六二 三才図会所載

六六三 和漢三才図会所載鳩杖

かへしろのちやう かへしろ

六六四 大神宮儀式図所載壁代帳【彩】

六六五 或家蔵壁代【彩】

伝云伏見宮邦輔親王御物 表纈纈染

六六六 石山寺宝物壁代【彩】

【第五七冊】器財部

火打袋

六六七 撰州住吉神宝燧袋

神功后宮三韓征伐に中臣の烏賊津連

奉る所といふ

六六八 集古十種所載千葉介常胤下鞆所提燧袋

図

六六九 同 大阪商家蔵鳩丸短刀所提燧袋図

六七〇 同 大坂商家蔵義昭公藤丸短刀所提燧

袋図

六七一 細川家所蔵織田右府燧袋

青サントメ皮ヲ用テ縫 大如図

六七二 好古小録所載燧袋図
六七三 河内国交野郡渚村郷土某氏所伝燧袋
弘賢蔵

六七四 越後国農家所佩燧袋図

六七五 七十一番職人尽絵所見火打袋

六七六 建保職人尽絵所載火打袋【彩】

六七七 江原親章蔵燧袋

以毛皮製 大如図

有明袋

六七八 真野是翁所伝燧袋図

六七九 古製燧袋

六八〇 津山家臣正木主馬所蔵

六八一 保元物語絵巻物所載燧袋

六八二 蒙古襲来絵所載燧袋

六八三 姫路家蔵燧袋

頼朝形といひ伝るものなり

六八四 松井林徳所蔵燧袋

六八五 後三年合戦絵巻物所載燧袋(二種)

六八六 舞人辻氏蔵燧袋

六八七 愚得随筆所載燧袋図(二種)(一種は

【彩】

六八八 舞楽図採桑老所佩燧袋図

六八九 清人所用燧袋

大如図

六九〇 清人燧袋【彩】

腰刀につくる

六九一 義家朝臣火打袋図

「エヒカラツクリノ太刀ニカケラ
レシトイヒ伝フ」

六九二 利休茶道具図絵

燧袋並指柯図

【第五八冊】器財部

檜扇 杉横目扇 冬扇

六九三 大嘗会調度図所載神御扇

六九四 五節図所載檜扇

六九五 京極行幸絵所載【彩】

六九六 朝覲行幸図所載【彩】

【第五九冊】器財部

ほこ 矛

六九七 天逆鉾図(三種)

文化癸酉年(一一八一三) 本阿弥宗円
遊于薩州得此図

「平田篤胤云信物なるや否」

六九八 都城安永村明観寺荒獄権現神体

「正面形霧島山絶頂折先ト云」

六九九 内宮御神宝之図所載御鉾【彩】

七〇〇 外宮御神宝之図所載御鉾【彩】

七〇一 渋谷金王丸鉾図

七〇二 安斎雜録所載石山寺手鉾【彩】

七〇三 本朝軍器考図式所載水口(二種)【彩】

七〇四 本朝軍器考図式所載

山城国静原二宮社蔵天武天皇御鉾

七〇五 東大寺宝物図所載鉾(三種)

やり 鍵

七〇六 本多忠勝蜻蛉斬鎧図

七〇七 長坂血鎧九郎鎧図

七〇八 酒井修理大夫家士大谷正澄所蔵服部半
蔵鎧

七〇九 長坂血鎧九郎鎧

子孫長坂権九郎所持 天明二年(一

七八二) 貞彦所見押形図 大サ如図

七一〇 鎮日(目)市左衛門家蔵

鎮日(目)半次郎雅明鎧

「信州上田鎧戦ノ時はヲ持七本
鎧之内」 大サ如図

七一 武州江府浅草東光山松平西福寺之什物

服部半蔵持鎧

七二 同 西福寺什物南蛮之鎌鎧(二種)

「一筋トモ銘アリ身出来八錆二
テ不見」

七二三 友田金平鎧図

大坂城中有之(鎧の身に「南無妙法
蓮華経」に続けて「さくとき八花の
数に八たらねともちるにそもれぬと
も田金平」、同裏に「いつの日のい
つまでそとやおもひしにことしのけ
ふのいまにさたまる」の歌)

七二四 武用弁略所載

鋒・月劔・山劔・立劔・転丁・鋼又・
徒鎧・長鋒・管鎧

【第六〇冊】器財部

はらのふえ こさ 大角 くだのふえ 竹ほ
ら 小角

七二五 三才図会所載画角

七二六 同 銅角

七二七 元趙清潤筆文姫帰漢図所載吹角

七二八 程致遠筆文姫帰漢図所載角(二種)

七二九 蝦夷人所用コサの図

七三〇 琉球国楽器図所載銅角

小硯匣

七三一 後三年絵小硯及小匣図

七二二 蒙古絵小硯匣
七二三 弘賢家蔵小硯匣

依元様黒漆内赤漆
七二四 或家蔵小硯匣

依元様内外黒漆以丹絵兔
七二五 函箆引出

床几 あくら 胡床 床子
七二六 大嘗会調度図所載小牀

七二七 同 白木大牀子
七二八 釈奠図所載牀子

七二九 和漢三才図会所載胡床
七三〇 同 摺疊椅

七三一 武用弁略所載牀几名所図
七三二 三才図会所載胡床

貝 螺 海螺 宝螺 法螺
七三三 辻井某著朝鮮楽器図【彩】

正徳聘使（一七二一年）の時浅草本
願寺においてつつす所なり

【第六一冊】器財部

団扇 軍配団扇
七三四 城州葛野郡太秦広隆寺所蔵上宮太子団

扇【彩】
七三五 総州佐倉妙見寺所蔵千葉介常將軍配団

扇【彩】
七三六 同 頼朝將軍軍配団扇【彩】

七三七 沙那王丸所持団扇
七三八 撰州兵庫楠寺所蔵楠正成団扇【彩】

七三九 常陸国筑波神社所蔵小田成治軍団之図
七四〇 駿府安部郡頭光院所蔵信玄軍配団扇

相伝神君御寄（二種）

七四一 上野国新田後閑家蔵源義家朝臣軍扇
【彩】

七四二 後三年合戦図所載武者所持扇（二種）
（一種部分に【彩】）

あぶき
七四三 伴大納言絵詞所載扇【彩】
七四四 やすらい花絵詞所載扇【彩】

七四五 一遍上人画所載扇【彩】
七四六 加茂祭図所載扇（三種）

七四七 義国朝臣像所持扇
七四八 東大寺蔵隨身庭騎図所載扇

七四九 曾我物語画所載扇

【第六二冊】器財部

からかさ 傘
七五〇 大嘗会画図所載菅大笠【彩】

七五一 八幡太郎絵詞所載織【彩】
七五二 加茂祭絵詞所載織【彩】

屏織類か
七五三 弘法大師行状絵所載織（四種）【彩】
七五四 円光大師行状絵所載織（二種）【彩】

【第六三冊】器財部

けうさん 夾竿
「けうさんは竹をワリて巻物にはさむ物
なり 今の世の枝折はこの遺風なり」

（無題）
七五五 山槐記云

（無題）
七五六 山槐記の図に細き紙捻にて結之

七五七 紀伊国高野山某蔵夾竿図

大如図
藤代墨

七五八 或書所図藤代墨

【第六四冊】器財部

ふくるま 書車 文車
「ふくるまは書籍を載て道路を引車なり」
七五九 絵師冊子所載文車図

七六〇 石山寺縁起絵所載文車図
七六一 好古小録所載文車

古画所図云
七六二 元趙清潤画文姫帰漢図所載車図

七六三 文車図
七六四 文車図

「有栖川故親王家遺愛云 高井宣
風所持伝也」

【第六五冊】器財部

つらぬき（貫）
七六五 或家所蔵つらぬき【彩】
七六六 蒙古合戦絵詞所載つらぬき

熊皮貫
七六七 後三年合戦絵詞所載つらぬき【彩】

虎皮貫
七六八 或家伝虎皮貫

【第六六冊】草木部

くろ松 雄松
七六九 くろ松【彩】

あか松 雌松
七七〇 あか松【彩】

しる松
 七七一 しる松【彩】
 五葉松
 七七二 海松・同松毬【彩】
 七七三 又一種【彩】
 七七四 五葉松一種・同木身・同松毬【彩】
 七七五 又一種【彩】
 三葉松
 七七六 三葉松【彩】
 かしま松
 七七七 かしま松【彩】
 連葉松
 七七八 連葉松【彩】
 連理松
 七七九 肥後国五町手永ウルケ（宇留毛）村連理松【彩】
 しもふり松
 七八〇 しもふり松【彩】
 しらか松
 七八一 しらか松（四種）【彩】
 され松
 「盆に載て玩ぶものなり 矮松に似てそれよりも小なるものなり」
 七八二 され松【彩】
 ねむり松
 七八三 ねむり松【彩】
 ふし松
 「ふし松八富士山中に多く生ずるを以てしか名付たり また日光山中にも多し故に或八日光松ともいふ」
 七八四 ふし松【彩】

根あかり松

七八五 豊後国国崎郡深浦根上り松【彩】
 七八六 紀伊国名所図会所載根上り松
 【第六七冊】草木部
 【第六八冊】草木部
 【第六九冊】草木部
 児桜
 七八七 怡顔齋桜品所載児桜
 七八八 単児桜【彩】
 七八九 八重児桜【彩】
 七九〇 怡顔齋桜品所載殿桜
 七九一 殿桜（二種）【彩】
 芝山桜
 七九二 怡顔齋桜品所載芝山桜
 七九三 芝山桜【彩】
 七九四 単鷲尾【彩】
 七九五 八重鷲尾【彩】
 七九六 変種鷲尾【彩】
 七九七 碧玉桜【彩】
 逆手桜
 七九八 怡顔齋桜品所載逆手桜
 七九九 逆手桜【彩】
 八〇〇 嵯峨手桜
 八〇一 変種逆手（二種）【彩】
 帆立桜
 八〇二 怡顔齋桜品所載帆立桜
 八〇三 帆立桜【彩】
 帆掛桜
 八〇四 怡顔齋桜品所載帆掛桜
 八〇五 帆掛桜【彩】
 八〇六 異種帆掛【彩】
 八〇七 異種帆掛桜（二種）【彩】
 八〇八 変種帆掛桜【彩】
 八〇九 旗桜【彩】
 八一〇 異種旗桜【彩】
 八一 八幡太郎旗桜【彩】
 【第七〇冊】草木部
 駒繫桜
 八一二 怡顔齋桜品所載駒繫桜
 八一三 駒繫桜【彩】
 八一四 異種駒繫
 八一五 駒留桜【彩】
 山桜
 八一六 怡顔齋桜品所載山桜
 八一七 山桜【彩】
 八一八 山桜【彩】
 青葉
 八一九 小山桜【彩】
 八二〇 八重山桜【彩】
 八二一 異種山桜【彩】
 又曰遠川類
 八二二 日光山中禅寺桜【彩】
 八二三 変種山桜（一〇種）【彩】
 小桜
 八二四 怡顔齋桜品所載小桜
 八二五 小桜【彩】
 八二六 小桜紅【彩】
 白桜

- 八二七 怡顔齋桜品所載白桜
- 八二八 上野白桜(二種)【彩】
- 雪山桜
- 八二九 怡顔齋桜品所載雪山桜
- 八三〇 雪乃山【彩】
- 八三一 雪山【彩】
- 一文字
- 八三二 怡顔齋桜品所載一文字桜
- 薄墨桜
- 八三三 怡顔齋桜品所載薄墨桜
- 八三四 薄墨桜(二種)【彩】
- 桐谷
- 八三五 怡顔齋桜品所載桐谷
- 八三六 桐谷【彩】
- 八三七 来福寺車返【彩】
- 江戸桜
- 八三八 怡顔齋桜品所載江戸桜
- 八三九 江戸桜【彩】
- 八四〇 おむろ御所御庭江戸桜
- 八四一 江戸単【彩】
- 八四二 小桜重【彩】
- 「築地に八重小桜あり今少大輪ナリ」
- 八四三 江戸桜【彩】
- 法輪寺
- 八四四 怡顔齋桜品所載法輪寺【彩】
- 八四五 法転(輪)寺【彩】
- 八四六 嵯峨法輪寺
- 江戸法輪寺
- 八四七 怡顔齋桜品所載江戸法輪寺
- 八四八 江戸法輪寺【彩】
- 楼間桜
- 八四九 怡顔齋桜品所載楼間桜
- 八五〇 廊間【彩】
- 八五一 禁裏ろつまつ
- 「紫宸殿清涼殿の間に実生のさくら廊間と勅名」
- 海棠桜
- 八五二 怡顔齋桜品所載海棠桜
- 八五三 海棠桜【彩】
- 【第七一冊】草木部
- 千本桜
- 八五四 怡顔齋桜品所載千本桜
- 八五五 千本桜【彩】
- 八五六 異種千本桜【彩】
- 九重桜
- 八五七 怡顔齋桜品所載九重桜
- 八五八 九重桜【彩】
- 浅黄桜
- 八五九 怡顔齋桜品所載浅黄桜
- 八六〇 浅黄【彩】(貼り紙の図欠)
- 八六一 浅黄重【彩】(貼り紙の図欠)
- 八六二 異種浅黄【彩】
- 樺桜
- 八六三 怡顔齋桜品所載樺桜
- 八六四 蔵王社之種即樺桜之根元【彩】
- 八六五 上野田正覚寺之種即樺桜別種【彩】
- 八六六 本郡内池照光寺之種即樺桜別種【彩】
- 八六七 薄樺桜【彩】
- 樺桜
- 八六八 怡顔齋桜品所載樺桜
- 八六九 樺桜【彩】
- 八七〇 変種樺桜【彩】
- 八七一 鬱金桜【彩】
- 樺桜
- 八七二 樺【彩】
- 爪紅桜
- 八七三 怡顔齋桜品所載爪紅
- 楊貴妃
- 八七四 怡顔齋桜品所載楊貴妃桜
- 八七五 楊貴妃【彩】
- 八七六 楊貴妃占風園(二種)【彩】
- 占風園
- 八七七 本郡桜塚即楊貴妃之変種【彩】
- 自本桜塚楊貴妃之一名
- 八七八 単楊貴妃【彩】
- 八七九 異種楊貴妃(三種)【彩】
- 有明桜
- 八八〇 怡顔齋桜品所載有明桜
- 八八一 有明【彩】
- 八八二 有明桜【彩】
- 毬桜
- 八八三 怡顔齋桜品所載毬桜
- 八八四 小手毬【彩】
- 八八五 変種小手毬【彩】
- 八八六 大手毬【彩】
- 糸括
- 八八七 怡顔齋桜品所載糸括桜
- 八八八 糸括【彩】
- 八八九 大手毬【彩】
- 提灯
- 八九〇 怡顔齋桜品所載大提灯桜

八九一 怡顏齋校品所載小提灯笼
八九二 小提灯【彩】
八九三 大提灯【彩】
八九四 変種提灯【彩】
五所校
八九五 怡顏齋校品所載五所校

【第七二冊】草木部

昭君校

八九六 怡顏齋校品所載昭君校
句校
八九七 怡顏齋校品所載香校
八九八 句校【彩】
八九九 句校【彩】
松平備後守庭樹
九〇〇 白川公築地句校
九〇一 句校【彩】
与板侯別業其原在吹上御園
九〇二 句校【彩】
吉野山種平塚氏庭樹
嘗聞之大和国人此種在一目千本之首
云

九〇三 句校二種【彩】

岡村氏庭樹 尾島氏庭樹

緋校

九〇四 怡顏齋校品所載緋校
九〇五 緋校【彩】
薩摩緋校
九〇六 怡顏齋校品所載薩摩緋校
寒緋校 一名元日校
九〇七 寒緋校【彩】

虎尾 紅虎尾

九〇八 怡顏齋校品所載千弁虎尾校
九〇九 虎尾【彩】
九一〇 虎尾单【彩】
九一一 変種虎尾(二種)【彩】
泰山府君
九一二 泰山府君【彩】
掛川侯千駄木別荘

九一三 怡顏齋校品所載泰山府君校

九一四 泰山府君【彩】

九一五 変種泰山府君(二種)【彩】

真校

九一六 怡顏齋校品所載真校

外山校

九一七 怡顏齋校品所載外山校

九一八 外山校【彩】

暁校 一名明星校

九一九 怡顏齋校品所載暁校

普賢象

九二〇 怡顏齋校品所載紅普賢象校

九二一 真普賢象校 六々校種類【彩】

九二二 普賢堂【彩】

九二三 異種普賢象【彩】

九二四 紅普賢象【彩】

瞿麦校

九二五 怡顏齋校品所載瞿麦校

鳳来寺

九二六 怡顏齋校品所載鳳来寺校

九二七 鳳来寺【彩】

塩竈校

九二八 怡顏齋校品所載塩竈校

九二九 塩竈(二種)【彩】

九三〇 異種塩竈【彩】

九三一 浅黄塩竈【彩】

名島校

九三二 怡顏齋校品所載名島校

九三三 名島校【彩】

【第七三冊】草木部

大膳校

九三四 怡顏齋校品所載大膳校

九三五 大膳【彩】

九三六 変種大膳【彩】

九三七 異種大膳校【彩】

伊勢校

九三八 怡顏齋校品所載伊勢校

九三九 伊勢校【彩】

九四〇 伊勢【彩】

九四一 変種伊勢【彩】

奈良八重校

九四二 怡顏齋校品所載奈良校

九四三 奈良都【彩】

遅校

九四四 怡顏齋校品所載遅校

九四五 遅校【彩】

不断校 一名長春校

九四六 怡顏齋校品所載不断校

九四七 怡顏齋校品所載八重不断校

九四八 不断校【彩】

九四九 三度校【彩】

九五〇 節会校【彩】

南殿校

九五二 南殿【彩】

九五三 奈天桜【彩】

九五四 紅葉奈天【彩】

九五五 色奈天【彩】

九五六 爪紅奈天【彩】

九五七 菊奈天【彩】

九五八 菊奈天類【彩】

九五九 奥州南天【彩】

九五九 小南殿【彩】

九六〇 大奈天【彩】

谷越桜

九六一 谷越【彩】

尾張殿市谷邸内有香蓋勾桜之種類

弁殿桜

九六二 单便殿【彩】

九六三 八重便殿【彩】

九六四 変種便殿(二種)【彩】

赤芽桜

九六五 宮川侯赤芽桜【彩】

墨染桜

九六六 墨染【彩】

九六七 変種墨染(二種)【彩】

雲珠桜

九六八 薄桜【彩】

備後三郎題詩桜

九六九 備後三郎題詩桜【彩】

九七〇 備後三郎桜

栖霞桜

九七一 栖霞【彩】

占春園元禄年移栖霞峯之種改名云

拾桜

九七二 拾桜【彩】

右衛門桜

「武蔵国豊島郡柏木村に立所なり」

九七三 右衛門桜(二種)(彩色図および無彩色の花弁の図)

白妙桜

九七四 白妙【彩】

醍醐桜

九七五 醍醐桜【彩】

犬桜

九七六(無題 葉形の図)

木曾の「犬桜・日光の「ヨクソ桜」

の葉形

【第七四冊】草木部

彼岸桜 古名犬桜

九七七 怡顔齋桜品所載彼岸桜

九七八 单彼岸【彩】

九七九 異種彼岸【彩】

九八〇 犬山東叡山【彩】

九八一 怡顔齋桜品所載八重彼岸桜

九八二 八重彼岸【彩】

九八三 怡顔齋桜品所載彼岸桜

九八四 婆彼岸【彩】

系桜

九八五 怡顔齋桜品所載系桜大垂枝

九八六 同 小垂枝

九八七 同 芳野垂枝

九八八 同 千弁系桜

九八九 系桜【彩】

九九〇 系桜重弁【彩】

九九一 鴨枝垂【彩】

熊谷桜

九九二 怡顔齋桜品所載熊谷桜

九九三 熊谷【彩】

九九四 異種熊谷【彩】

婆桜

九九五 怡顔齋桜品所載婆桜

九九六 姥桜(二種)【彩】

九九七 異種婆桜【彩】

九九八 婆桜異種【彩】

【第七五冊】草木部

八重垣

九九九 八重垣【彩】

牡丹桜

一〇〇〇 牡丹【彩】

一〇〇一 変種牡丹【彩】

須磨

一〇〇二 須磨【彩】

一〇〇三 変種須磨【彩】

長崎桜

一〇〇四 長崎【彩】

一〇〇五 変種長崎【彩】

渋谷金王桜

一〇〇六 渋谷金王桜【彩】

金王桜

一〇〇七 金王桜【彩】

常盤桜

一〇〇八 常盤【彩】

十月桜

一〇〇九 十月桜【彩】

脇坂中務大輔庭中

十月桜

「此花も十月桜と称す 是全く彼岸桜の
一種にて(中略)八月頃より花を開く 故
に八月桜ともいへり」

一〇二〇 十月桜【彩】

エトロフ桜

一〇二一 エトロフ産【彩】

文化十二年(一八一五)乙亥四月念

八日満開

未勘十七種

「何桜の類といふことをしらす またそ
の名のもとつとくところを詳にせず しかれ
ともこの花往々あり よりてこゝにあつめ
のせて後の識者をまつ」

一〇二二 寿春桜【彩】

一〇二三 雀桜【彩】

一〇二四 白玉【彩】

一〇二五 観音桜【彩】

一〇二六 羅桜【彩】

一〇二七 平頭桜【彩】

一〇二八 鳳尾桜【彩】

一〇二九 芭蕉堂桜【彩】

一〇三〇 醉臍脂【彩】

一〇三一 白山桜【彩】

一〇三二 大船【彩】

一〇三三 松川【彩】

一〇三四 玉堂桜【彩】

一〇三五 時雨【彩】

一〇三六 玉盤桜【彩】

一〇三七 芍薬桜【彩】

一〇二八 九品桜【彩】

【第七六冊】草木部

【第七七冊】草木部

【第七八冊】草木部

のむめ 野梅

一〇二九 怡顔齋梅品所載江梅

一〇三〇 野梅【彩】

一〇三一 (無題 野梅の実の図)【彩】

又

一〇三二 又一種

又八重

一〇三三 又八種【彩】

又一種

一〇三四 又一種【彩】

加賀白梅

一〇三五 加賀白梅【彩】

薰雪

一〇三六 薰雪【彩】

残月梅

一〇三七 残月梅【彩】

はやさき 大雪梅

一〇三八 怡顔齋梅品所載早梅

一〇三九 大雪梅【彩】

一〇四〇 冬咲【彩】

小梅 信濃梅

一〇四一 怡顔齋梅品所載消梅

一〇四二 小梅【彩】

一〇四三 (無題 小梅の実の図)【彩】

照水梅

一〇四四 怡顔齋梅品所載照水梅

一〇四五 茶青梅【彩】

一〇四六 八重茶青(三種)【彩】

一〇四七 古唐梅【彩】

一〇四八 新唐梅【彩】

緑萼梅 月影梅 白雲梅

一〇四九 怡顔齋梅品所載緑萼梅

一〇五〇 月影梅(二種)【彩】

一〇五一 又所載同八重

一〇五二 白雲梅【彩】

白妙

一〇五三 白妙【彩】

山人

一〇五四 山人【彩】

風流梅

一〇五五 風流梅【彩】

残雪梅 一名衣更着

一〇五六 残雪梅【彩】

【第七九冊】草木部

臥龍梅

一〇五七 怡顔齋梅品所載臥龍梅

一〇五八 臥龍梅(二種)【彩】

青竜梅

一〇五九 (無題)【彩】

ふゆむめ ところなり

一〇六〇 怡顔齋梅品所載冬梅

一〇六一 冬梅【彩】

一〇六二 (無題 冬梅の実の図)【彩】

一〇六三 常梅【彩】

又一種常梅

一〇六四 怡顔齋梅品所載常梅

鈴むめ

一〇六五 鈴梅【彩】

一〇六六 (無題 鈴梅の実の図)【彩】

一〇六七 又一種【彩】

一〇六八 (無題 鈴梅の実の図)【彩】

えいさんはく

一〇六九 怡顔齋梅品所載黄香梅

一〇七〇 叡山白【彩】

金梅 井出の里

一〇七一 井出の里【彩】

紅梅

一〇七二 (無題) (六種)【彩】

八朔梅

一〇七三 怡顔齋梅品所載八朔梅

一〇七四 韻勝園梅譜所載八朔梅【彩】

又一種

一〇七五 又一種 秋咲【彩】

一〇七六 又一種 春咲【彩】

浅香山 うす寒紅

一〇七七 浅香山【彩】

冬至梅

一〇七八 怡顔齋梅品所載冬至梅

一〇七九 冬至梅【彩】

一〇八〇 青冬至梅【彩】

一〇八一 薄冬至梅【彩】

寒紅梅

一〇八二 怡顔齋梅品所載寒紅梅

一〇八三 寒紅梅【彩】

一〇八四 又八重【彩】

寒陽袋

「春田久啓(幕臣で『韻勝園梅譜』の著者)園中に感陽袋といへるものなるへけれども その名義いまた詳ならず」

一〇八五 感陽袋【彩】

蘇芳紅梅

一〇八六 怡顔齋梅品所載紫梅

一〇八七 蘇芳紅梅【彩】

朱梅

一〇八八 怡顔齋梅品所載朱梅

一〇八九 朱梅【彩】

緋梅

一〇九〇 緋梅【彩】

一〇九一 大輪緋梅【彩】

朝日貝梅

一〇九二 旭貝【彩】

夏衣梅

一〇九三 夏衣【彩】

玉光梅

一〇九四 玉光梅【彩】

【第八〇冊】草木部

【第八一冊】草木部

【第八二冊】草木部

(椿)

一〇九五 山つはき【彩】

一〇九六 同 実【彩】

一〇九七 同 末秋より開く物【彩】

一〇九八 同 淡紅の物【彩】

一〇九九 同 八重【彩】

一一〇〇 金山【彩】

霜降の節より開

一一〇一 八木椿【彩】

下総国八木村の産 開時前におなし

一一〇二 乙女【彩】

一一〇三 ゆあかり【彩】

一一〇四 しかみ【彩】

一一〇五 さらさ【彩】

花戸の称 冬より開

一一〇六 わひすけ【彩】

一一〇七 同 紅色のもの【彩】

一一〇八 緋車【彩】

一一〇九 星車【彩】

一一一〇 老松【彩】

一一一一 同老松と呼もの【彩】

一一一二 狸々【彩】

一一一三 朝かゝり【彩】

一一一四 ものかは【彩】

一一一五 からあや【彩】

一一一六 から錦【彩】

一一一七 小桜【彩】

一一一八 しら玉【彩】

一一一九 ひの木つはき【彩】

一一二〇 黄つはき【彩】

一一二一 車さか【彩】

加藤伊勢守藤原泰彦所蔵百椿図所載

(以下、一一二〇まで同図所載)

一一二二 きつかう【彩】

一一二三 無官【彩】

一一二四 みなもと【彩】

- 一一二五 まつしま【彩】
- 一一二六 空【彩】
- 一一二七 もまち【彩】
- 一一二八 あいみ河【彩】
- 一一二九 無綾しほり【彩】
- 一一三〇 ふしさんかい【彩】
- 一一三一 赤紅【彩】
- 種樹家弥三郎培養する所(以下、一
二六六まで同)
- 一一三二 八代【彩】
- 一一三三 金雞【彩】
- 一一三四 隅田川【彩】
- 一一三五 鈴か山【彩】
- 一一三六 鹿兒島【彩】
- 一一三七 星牡丹【彩】
- 一一三八 獅々頭【彩】
- 一一三九 酒中花【彩】
- 一一三〇 蝦夷錦【彩】
- 一一三一 唐錦【彩】
- 一一三二 翁紋【彩】
- 一一三三 藻衣【彩】
- 一一三四 丹頂【彩】
- 一一三五 春の台【彩】
- 一一三六 松か枝【彩】
- 一一三七 桃花鳥【彩】
- 一一三八 玉垂【彩】
- 一一三九 鷺の山【彩】
- 一一四〇 関守【彩】
- 一一四一 小蝶佗助【彩】
- 一一四二 卜伴【彩】
- 一一四三 鳥の子【彩】
- 一一四四 草紙洗【彩】
- 一一四五 花見車【彩】
- 一一四六 上妻【彩】
- 一一四七 塩釜【彩】
- 一一四八 高倉【彩】
- 一一四九 沖の波【彩】
- 一一五〇 玉坂【彩】
- 一一五一 初瀬山【彩】
- 一一五二 羽衣【彩】
- 一一五三 木珍花【彩】
- 一一五四 そこ紅【彩】
- 一一五五 薄色両面【彩】
- 一一五六 玉川【彩】
- 一一五七 数奇屋【彩】
- 一一五八 妙見寺【彩】
- 一一五九 白桔梗椿【彩】
- 一一六〇 雪月花【彩】
- 一一六一 玉手箱【彩】
- 一一六二 下妻【彩】
- 一一六三 白滝【彩】
- 一一六四 都鳥【彩】
- 一一六五 大れんげ【彩】
- 一一六六 白ちん花【彩】
- 【第八四冊】草木部
- 【第八五冊】草木部
- かへて
- 一一六七 雞冠木【彩】
- 楓
- 一一六八 楓青葉【彩】
- 一一六九 楓【彩】
- かつら
- 一一七〇 (無題 葉の図)
- 一一七一 かつら【彩】
- 唐楓
- 一一七二 (無題 葉の図)
- 一一七三 小力へテ
- 大和本草
- 一一七四 からかへて
- 花曇
- 一一七五 唐楓【彩】
- 伊兵衛園中
- 一一七六 唐かへて【彩】
- 一一七七 又紅葉(紅葉した唐楓)【彩】
- 梨紅葉
- 一一七八 梨【彩】
- 梅紅葉
- 一一七九 梅【彩】
- 桜紅葉
- 一一八〇 桜【彩】
- 柿紅葉
- 一一八一 柿【彩】
- ねすもちの紅葉
- 一一八二 かなめもち【彩】
- はし紅葉
- 一一八三 櫨【彩】
- 一一八四 琉球はし【彩】
- 漆紅葉
- 一一八五 うるし【彩】
- 一一八六 山うるし【彩】
- 白膠木紅葉 ぬて ぬるて

- 二二八七 めるで
花曇
- 二二八八 めるで【彩】
- 【第八六冊】草木部
- 柞(ははそ)紅葉
二二八九 柞(三種)【彩】
奈良
- 二二九〇 榎【彩】
- 二二九一 こ奈良【彩】
- 二二九二 大奈良【彩】
- 榎(かしわ)
- 二二九三 榎【彩】
- 二二九四 こかしは【彩】
- 久沼木(くぬぎ)
- 二二九五 久沼木【彩】
- 二二九六 女久沼木【彩】
- 葛
- 二二九七 葛【彩】
- 佐奈葛
- 二二九八 さねかつら【彩】
- つたの紅葉 蔦 絡石 地錦
- 二二九九 蔦【彩】
- ち ちかや
- 一三〇〇 ちかや【彩】
- まゆみ 檀 桃葉衛矛
- 一三〇一 まゆみ【彩】
- にしき木 衛矛
- 一三〇二 にしき木【彩】
- さはたち
- 一三〇三 さ八たち【彩】
- つりはな いみぎ
- 一三〇四 つりはな【彩】
- 紅葉木 ひめまゆみ
- 一三〇五 紅葉木【彩】
- まさきのかつら
- 一三〇六 まさきのかつら【彩】
- 【第八七冊】草木部
- 槻もみち
- 一三〇七 槻(五種)【彩】
- 楸 ひさき きもみち
- 一三〇八 ひさき【彩】
- 烏臼木(とうはぜ) なんきんはぜ
- 一三〇九 烏臼木【彩】
- しらすぎ
- 一三一〇 志羅木【彩】
- 小倉山十二単
- 一三一(無題)
- 一三一二 小倉山(二種)【彩】
- 高雄
- 一三三三(無題)
- 一三三四 高雄(二種)【彩】
- 八染
- 一三三五(無題)
- 一三三六 八染【彩】
- 笠取山
- 一三三七(無題)
- 一三三八 笠取山(二種)【彩】
- 赤地錦
- 一三三九(無題)
- 一三三〇 赤地錦(二種)【彩】
- たむけ山
- 一三三一(無題)
- 一三三二 手向山(二種)【彩】
- 名月 一名いたや楓
- 一三三三(無題)
- 一三三四 名月(二種)【彩】
- しめの内
- 一三三五(無題)
- 一三三六 しめの内【彩】
- ときわ
- 一三三七(無題)
- 一三三八 ときわ【彩】
- 切錦
- 一三三九(無題)
- 一三三〇 切錦(二種)【彩】
- 青葉
- 一三三一(無題)
- 一三三二 青葉(二種)【彩】
- かきり
- 一三三三(無題)
- 一三三四 かきり【彩】
- 紅の波
- 一三三五(無題)
- 一三三六 紅の波(二種)【彩】
- 紋錦
- 一三三七(無題)
- 一三三八 紋錦(二種)【彩】
- さほ山
- 一三三九(無題)
- 一三四〇 さを山(二種)【彩】
- 袖の内

- 一三四一 (無題)
一三四二 袖の内(二種)【彩】
鹿紅葉
一三四三 (無題)
一三四四 鹿紅葉【彩】
業平
一三四五 (無題)
一三四六 業平(二種)【彩】
- 【第八八冊】草木部
かよひ
一三四七 (無題)
一三四八 かよひ【彩】
朝露
一三四九 (無題)
一三五〇 朝露(二種)【彩】
奥州独揺(しだれ)
一三五一 (無題)
一三五二 奥州独揺(二種)【彩】
しからみ
一三三三 (無題)
一三五四 しからみ(二種)【彩】
しくれ山
一三五五 (無題)
一三五六 しくれ山(二種)【彩】
九重
一三五七 (無題)
一三五八 九重(二種)【彩】
武蔵野
一三五九 (無題)
一三六〇 武蔵野(二種)【彩】
- 嵐山
一三六一 (無題)
一三六二 嵐山(二種)【彩】
立田
一三六三 (無題)
一三六四 立田(三種)【彩】
侘人
一三六五 (無題)
一三六六 侘人(二種)【彩】
待風
一三六七 (無題)
一三六八 待風【彩】
白波
一三六九 (無題)
一三七〇 白波(二種)【彩】
深山楓
一三七一 (無題)
一三七二 深山楓【彩】
通天
一三七三 (無題)
一三七四 通天(二種)【彩】
飛鳥川
一三七五 (無題)
一三七六 飛鳥川【彩】
村雲
一三七七 (無題)
一三七八 村雲(二種)【彩】
唐錦
一三七九 (無題)
一三八〇 唐錦(二種)【彩】
うらべに
- 一三八一 (無題)
一三八二 うらべに【彩】
千染
一三八三 (無題)
一三八四 千染(二種)【彩】
もみちかさね
一三八五 (無題)
一三八六 もみちかさね(二種)【彩】
関守
一三八七 (無題)
一三八八 関守(二種)【彩】
ます紫
一三八九 (無題)
一三九〇 ます紫(二種)【彩】
遠近人
一三九一 (無題)
一三九二 遠近人(二種)【彩】
小夜時雨
一三九三 (無題)
一三九四 小夜時雨(二種)【彩】
ひとしほ
一三九五 (無題)
一三九六 ひとしほ(二種)【彩】
松かえ
一三九七 (無題)
一三九八 松かえ(二種)【彩】
神無月
一三九九 (無題)
一四〇〇 神無月(二種)【彩】

【第八九冊】草木部

- とやま
- 一四〇一 (無題)
- 一四〇二 とやま (二種)【彩】
- 隣家
- 一四〇三 (無題)
- 一四〇四 隣家 (二種)【彩】
- 敷島
- 一四〇五 (無題)
- 一四〇六 敷島 (二種)【彩】
- 花のえん
- 一四〇七 (無題)
- 一四〇八 花のえん (二種)【彩】
- 古郷
- 一四〇九 (無題)
- 一四一〇 古郷 (二種)【彩】
- 初もみち
- 一四一一 (無題)
- 一四一二 初もみち【彩】
- 夕暮
- 一四一三 (無題)
- 一四一四 夕暮 (二種)【彩】
- 紋尽
- 一四一五 (無題)
- 一四一六 紋尽 (二種)【彩】
- 夕時雨
- 一四一七 (無題)
- 一四一八 夕時雨【彩】
- 鬱金
- 一四一九 (無題)
- 一四二〇 鬱金 (二種)【彩】

水かゝみ

- 一四二一 (無題)
- 一四二二 水かゝみ (二種)【彩】
- をくしも
- 一四二三 (無題)
- 一四二四 をくしも (二種)【彩】
- わすれかたみ
- 一四二五 (無題)
- 一四二六 わすれかたみ (二種)【彩】
- しくれそめ
- 一四二七 (無題)
- 一四二八 しくれそめ (二種)【彩】
- 千里
- 一四二九 (無題)
- 一四三〇 千里 (二種)【彩】
- 駒駐
- 一四三一 (無題)
- 一四三二 駒駐 (二種)【彩】
- 綾蘭笠
- 一四三三 (無題)
- 一四三四 綾蘭笠 (二種)【彩】
- しのぶ
- 一四三五 (無題)
- 一四三六 しのぶ (二種)【彩】
- 名取川
- 一四三七 (無題)
- 一四三八 名取川 (二種)【彩】
- 秋風
- 一四三九 (無題)
- 一四四〇 秋風 (二種)【彩】
- 内ゆかし

一四四一 (無題)

- 一四四二 内ゆかし (二種)【彩】
- 幾染
- 一四四三 (無題)
- 一四四四 幾染【彩】
- うつらの羽
- 一四四五 (無題)
- 一四四六 うつら羽【彩】
- 小雨の錦
- 一四四七 (無題)
- 一四四八 小雨の錦【彩】
- 七夕
- 一四四九 (無題)
- 一四五〇 七夕【彩】
- 手染糸
- 一四五一 (無題)
- 一四五二 手染山 (二種)【彩】
- 鹿毛織錦
- 一四五三 (無題)
- 一四五四 鹿毛織錦 (二種)【彩】

【第九〇冊】草木部

- 唐楓
- 一四五五 (無題)
- 一四五六 唐楓【彩】
- 漣波
- 一四五七 (無題)
- 一四五八 漣波 (二種)【彩】
- 初花
- 一四五九 (無題)
- 一四六〇 初花 (二種)【彩】

- 道しるへ
一四六一(無題)
一四六二 道しるへ(二種)【彩】
御所染
一四六三(無題)
一四六四 御所染【彩】
葛城
一四六五(無題)
一四六六 葛城(二種)【彩】
浅茅
一四六七(無題)
一四六八 浅茅(二種)【彩】
若紫
一四六九(無題)
一四七〇 若紫【彩】
唐織
一四七一(無題)
一四七二 唐織【彩】
待宵
一四七三(無題)
一四七四 待宵【彩】
夕霧
一四七五(無題)
一四七六 夕霧【彩】
釣錦
一四七七(無題)
一四七八 釣錦【彩】
呉服
一四七九(無題)
一四八〇 呉服(二種)【彩】
柞(ははそ)
- 一四八一(無題)
一四八二 柞【彩】
扇子流
一四八三(無題)
一四八四 扇子流(二種)【彩】
麓寺
一四八五(無題)
一四八六 麓寺(二種)【彩】
十寸鏡
一四八七(無題)
一四八八 十寸鏡【彩】
真間
一四八九(無題)
一四九〇 真間【彩】
一四九一 弘法寺(下総国真間山弘法寺)【彩】
七瀬川
一四九二(無題)
一四九三 七瀬川(二種)【彩】
朽葉
一四九四(無題)
一四九五 朽葉(二種)【彩】
品川
一四九六(無題)
一四九七 品川(二種)【彩】
黄八丈
一四九八(無題)
一四九九 黄八丈(二種)【彩】
清滝
一五〇〇(無題)
一五〇一 清滝【彩】
鳶の葉
- 一五〇二(無題)
一五〇三 鳶の葉【彩】
水潜
一五〇四(無題)
一五〇五 水潜【彩】
金欄
一五〇六(無題)
一五〇七 金欄(二種)【彩】
松影
一五〇八(無題)
一五〇九 松影(二種)【彩】
軒端
一五一〇(無題)
一五一一 軒端【彩】
- 【第九一冊】草木部
あけひかつら 通草
一五二二 あけひ【彩】
一五二三 あけひの実【彩】
一五二四 同 三葉の物【彩】
一五二五 同 備荒本草所載
ひさき 楸
一五二六(無題)
一五二七 ひさき【彩】
みつのかしは
一五二八 内宮所用三角柏図【彩】
一五二九 同【彩】
内宮年寄磯部豊後贈所
蠟梅
一五三〇 臘梅【彩】
一五三一 馨口梅【彩】

一五二二 檀香梅

物類品鑑所載

まんさく

一五二三 まんさく 捻臘【彩】

【第九二冊】草木部

やまもゝ 山桜桃 楊梅

一五二四 やまもゝ 楊梅【彩】

くみ もろなり 胡頹子

一五二五 ぐみの花【彩】

一五二六 ぐミ 胡頹子【彩】

一五二七 ぐミ 蔓生【彩】

一五二八 なつくミ 木半夏【彩】

いたちはしかミ かりはのミ 山茱萸

一五二九 山茱萸花【彩】

一五三〇 山茱萸【彩】

はゝか かにはさくら かは 樺

一五三一 かば 樺【彩】

【第九三冊】草木部

きはちす あさかお むくけ 木蓮

一五三二 樺単弁 白【彩】

一五三三 同八重 白【彩】

一五三四 同 淡紅【彩】

一五三五 同八重 淡紅【彩】

一五三六 同単弁 紅【彩】

一五三七 同八重 紅【彩】

一五三八 同 そこ紅【彩】

一五三九 同単弁 さらさ【彩】

一五四〇 同 さらさ【彩】

一五四一 同芍薬味 紅【彩】

一五四二 藍樺【彩】

一五四三 小樺花ぼんでんくは【彩】

一五四四 木芙蓉【彩】

一五四五 醉芙蓉【彩】

一五四六 七面芙蓉(二種)【彩】

一五四七 木芙蓉単弁 白【彩】

一五四八 同八重【彩】

応挙所写

一五四九 黄樺はまばう【彩】

一五五〇 芙蓉 紅【彩】

一五五一 同八重 紅【彩】

一五五二 二段咲扶桑花 紅【彩】

一五五三 同単弁 黄【彩】

一五五四 同八重 黄【彩】

一五五五 同八重 褐色【彩】

【第九四冊】草木部

いよかつら 藍漆

一五五六 いよかつら【彩】

一五五七 かもめつる【彩】

一五五八 同 長葉【彩】

一五五九 同 大葉【彩】

一五六〇 白前【彩】

一六一一 同一種 くさたちはな【彩】

一五六二 肥前白前【彩】

一五六三 白微【彩】

一五六四 同一種 つるかしは【彩】

一五六五 同 円葉【彩】

くるへきな

一五六六 くるへきな【彩】

一五六七 同 根【彩】

一五六八 同 紫花【彩】

したつき すゝめうり 仙沼子 合子草

ほるとさう 続随子

さゝんくハ 山茶華

一五六九 続随子【彩】

一五七〇 すゝめうり【彩】

一五七一 したつき【彩】

一五七二 馬駁児大葉【彩】

一五七三 山茶花【彩】

一五七四 同 雪山【彩】

一五七五 同 白花 八重【彩】

一五七六 同 三国 紅【彩】

一五七七 同 根岸 紅【彩】

一五七八 同 しんくのふさ【彩】

一五七九 両面紅【彩】

一五八〇 同 つま紅(二種)

一五八一 同 ふせかう【彩】

一五八二 同 醉西施【彩】

一五八三 地錦抄所謂(載か) 薄紅大輪【彩】

一五八四 同 さめかへ【彩】

一五八五 同 初風【彩】

一五八六 同 梅の風【彩】

一五八七 同 あつまにしき【彩】

一五八八 地錦抄所載両面山茶花

一五八九 同 彘ちこ

一五九〇 同 玉ふよう

一五九一 同 三段花

一五九二 同 初古

一五九三 同 うらへに

一五九四 同 ほつへに

一五九五 同 しゃこはん

一五九六 同 せつさん

一五九七 同 小かち

一五九八 同 八ツはし

一五九九 同 らんへに

一六〇〇 同 ぎふ

一六〇一 同 せうせう紅

一六〇二 同 そこへに

一六〇三 同 めうめう紅

一六〇四 同 薄紅大輪

一六〇五 同 薄紅

一六〇六 同 水車

一六〇七 同 うづまき

一六〇八 同 いさはい

【第九五冊】草木部

くたに

一六〇九 ほゝつき 花【彩】

一六一〇 同 実【彩】

一六一一 丹波ほゝつき【彩】

一六一二 瓊瑤ほゝつき【彩】

一六一三 小ほゝつき 苦蕒【彩】

一六一四 いぬほゝつき 竜葵【彩】

一六一五 山ほゝつき 竜珠【彩】

一六一六 ねほゝつき【彩】

むべ うべ 郁子 藟実 漢名野木瓜 とき

ハあけび

一六一七 (無題)

一六一八 野木瓜

救荒本草卷之十

一六一九 木蓮

広益地錦抄卷之七

一六二〇 自近江国貢進郁子輿籠之図

一六二一 松岡氏筆記

天明三年(一七八三)十一月十一日

於生嶋亭記

一六二二 閑田耕筆

をかたまの木

一六二三 をがたまの木【彩】

【第九六冊】草木部

水仙

一六二四 水仙 未開図【彩】

一六二五 水仙【彩】

一六二六 同 八重【彩】

へみのあふら 閉美 閉弥

一六二七 へゞ 犬樅【彩】

一六二八 同 実【彩】

かや 樅

一六二九 くらかや【彩】

一六三〇 よしのかや しろかや【彩】

一六三一 くらかや 実【彩】

一六三二 しろかや 実【彩】

一六三三 みかや【彩】

はりの木 橙

一六三四 はり はんの木【彩】

一六三五 同 実【彩】

一六三六 やしやふし【彩】

一六三七 一種めはりの木【彩】

一六三八 一種日光ふし【彩】

はしはミ 榛

一六三九 はしはミ(二種)【彩】

一六四〇 なかはしはミ【彩】

一六四一 同 実【彩】

一六四二 同 実【彩】

尾州所彦(産か)

一六四三 同

備荒本草所載

【第九七冊】草木部

もけ 木瓜

一六四四 のぼけ しどミ【彩】

一六四五 同 不時花実【彩】

一六四六 ひぼけ【彩】

一六四七 しろぼけ【彩】

一六四八 さらさぼけ【彩】

一六四九 漢種木瓜【彩】

茶 茗

一六五〇 ちや【彩】

一六五一 同 実【彩】

【第九八冊】草木部

ぢんちやうけ 瑞香 睡香

一六五二 瑞香【彩】

一六五三 金辺瑞香【彩】

一六五四 銀辺瑞香【彩】

一六五五 白瑞香【彩】

一六五六 同 実【彩】

一六五七 やふこしやう【彩】

一六五八 同 実【彩】

一六五九 ミつまた【彩】

一六六〇 同 莖葉【彩】

一六六一 結香【彩】

そめしは 山礬

- 一六六一 そめしは【彩】
 あせひ あしミ 馬酔木
 一六六三 あせミ(二種)【彩】
 につし 菌芋
 一六六四 につし【彩】
 一六六五 同 花【彩】
 一六六六 同 実【彩】
 一六六七 同 一種【彩】
- 【第九九冊】草木部
 からもゝ あんす 杏
 一六六八 からもゝ【彩】
 一六六九 (無題 実の図)【彩】
 一六七〇 杏梅【彩】
 一六七一 同 八重【彩】
 ゆすら 桜桃
 一六七二 ゆすらの花【彩】
 一六七三 同 実【彩】
 うくひす うすの木
 一六七四 うくひす【彩】
 一六七五 うくひす 実【彩】
 わうはい 迎春花
 一六七六 わうはい 迎春花【彩】
 いたちくさ 連翹
 一六七七 いたちくさ おほをとぎり【彩】
 一六七八 をとぎり草【彩】
 一六七九 同 実【彩】
 一六八〇 伊吹をとぎり【彩】
 一六八一 ひめをとぎり【彩】
 一六八二 つきぬきをとぎり【彩】
 一六八三 連翹【彩】
- 南方医家説所用
 一六八四 同 実
- 【第一〇〇冊】草木部
 黄金竹
 一六八五 丹州図竹所載黄竹図【彩】
 金明竹 金竹
 一六八六 金明竹【彩】
 高麗竹 すぢ竹
 一六八七 高麗竹【彩】
 篇遅久 沙古丹竹
 一六八八 東藪竹譜所載斑竹図
 一六八九 同 暈竹図
 一六九〇 又一種暈竹図
 原書称江浙斑竹者非
 一六九一 同 電斑竹図
 一六九二 同 亀紋竹図
 一六九三 竹譜詳録所載暈竹図
 一六九四 沙古丹竹【彩】
- 【第一〇一冊】草木部
 布袋竹 琉球竹
 一六九五 布袋竹【彩】
 一六九六 竹譜詳録所載多般竹図
 仏面竹 仏肚竹
 一六九七 竹譜詳録所載人面竹 一名仏面竹
 一六九八 丹州図竹所載人面竹 一名仏面竹【彩】
 亀文竹
 一六九九 丹州図竹所載亀紋竹図【彩】
 鶴膝竹 鼓槌竹
 一七〇〇 東藪竹譜所載鶴膝竹の図
- 一七〇一 竹譜詳録所載鶴膝竹図
 高節竹 筳竹(きょうちく)
 「多紀安節の家に伝来せし一枯竹有
 年医学館薬品の具品とす」
 一七〇二 丹州図竹所載筳竹図【彩】
 一七〇三 筳竹【彩】
 ふたまた竹
 一七〇四 竹譜詳録所載雙梢竹図
 一七〇五 同 所載駢竹図
 一七〇六 同 所載薑竹屈折作葫蘆形者図
 一七〇七 板橋辺所生多岐竹図
 一七〇八 男谷彦四郎庭中所生双竹図【彩】
 左右枝竹
 一七〇九 榊原猪右衛門所蔵左右枝竹図【彩】
 一七一〇 丹州図竹所載相思竹図【彩】
 毬竹
 一七一一 竹譜詳録所載毬竹図
 羅漢杖竹
 一七一二 竹譜詳録所載羅漢杖竹図
 一七二三 井上筑後守藩内所植羅漢杖竹図【彩】
 台明竹 青葉笛竹
 一七二四 台明竹【彩】
 一七二五 大明竹【彩】
 一種大名竹
 一七二六 大名竹【彩】
- 【第一〇二冊】草木部
 南京竹 慈竹(一名義竹・孝竹ほか)
 一七二七 東藪竹譜所載義竹之図
 一七二八 竹譜詳録所載慈竹及筍之図
 一種大名竹

一七一九 大明竹【彩】

業平竹

一七二〇 業平竹【彩】

一七二一 琉球竹【彩】

簫竹

「本所外手街弁天小路青木曙左衛門庭中にあり」

一七二二 竹譜詳録所載蕩竹

一七二三 東藪竹譜所載蕩竹図

一七二四 丹州図竹所載蕩竹【彩】

一七二五 蕩竹【彩】

四方竹 四角竹

一七二六 四方竹【彩】

実竹

一七二七 丹州図竹所載実心竹図【彩】

一七二八 大窪柳太郎所載実心竹図【彩】

一七二九 同 葉

【第一〇三冊】草木部

瑠璃竹

一七三〇 玳瑁竹【彩】

一種またけ

一七三一 一種またけ【彩】

おきな竹

一七三二 翁竹【彩】

むらさき竹 胡麻竹

一七三三 むらさきたけ【彩】

一七三四 同 筍【彩】

寒竹 孟宗竹

一七三五 寒竹【彩】

一七三六 同 実

くろちく(黒竹)

一七三七 東藪竹譜所載烏竹図【彩】

一七三八 くろちく【彩】

玳瑁竹 紫弱竹

一七三九 玳瑁竹【彩】

疎節竹

一七四〇 疎節竹【彩】

しほ竹

一七四一 しほ竹【彩】

阿州産

いはら竹

一七四二 東藪竹譜所載刺竹図

蕙筍竹(一名洪竹)

一七四三 東藪竹譜所載洪竹図

一七四四 同 蕙筍竹図

【第一〇四冊】草木部

川竹 なよ竹 女竹

一七四五 川竹【彩】

しぬ しの

一七四六 しの【彩】

寒山竹

一七四七 寒山竹【彩】

おほたけ はちく

一七四八 於保多計【彩】

一七四九 同 筍【彩】

孟宗竹 わせたけ

一七五〇 孟宗竹【彩】

またけ にか竹(苦竹)

一七五一 末竹【彩】

【第一〇五冊】草木部

の やだけ(一名たけ 一名やたけ)

一七五二 やたけ【彩】

一種矢竹

一七五三 一種やたけ【彩】

通糸竹

一七五四 通糸竹【彩】

鳳凰竹 土用竹

一七五五 鳳凰竹【彩】

さとうを

一七五六 さとうを

丹洲図竹所載【彩】

一七五七(無題)

一七五八 さとうを【彩】

飛驒人荏野翁所図

一七五九 竹譜詳録所載魚尾竹

くまさゝ やきはさゝ

一七六〇 くまさゝ【彩】

ちまさゝ

一七六一 ちまさゝ【彩】

五枚篠 おかめさゝ

一七六二 五枚篠【彩】

さゝ

一七六三 さゝ【彩】

一七六四 一種【彩】

八丈鳥産

竜鬚竹

一七六五 丹洲図竹所載竜鬚竹【彩】

児篠

一七六六 ちこさゝ【彩】

【第一〇六冊】草木部

隈蘭 古今輪際

一七八一 隈蘭【彩】

玉花蘭 爪白

一七八二 玉花蘭【彩】

紫幹蘭 潘花

一七八三 紫幹蘭【彩】

青幹蘭 青茎蘭

一七八四 青幹蘭【彩】

博蘭 呉蘭

一七八五 博蘭【彩】

寒蘭 冬蘭

一七八六 寒蘭【彩】

紅寒蘭

一七八七 紅寒蘭【彩】

竹柏蘭

一七八八 竹柏蘭【彩】

【第一〇九冊】草木部

とりのあしくさ あわゆきそう 升麻

一七八九 とりのあしくさ【彩】

一七九〇 一種日光山之産【彩】

あかせうま なつゆき 落新婦

一七九一 あかせうま【彩】

一七九二 一種日光産(二種)【彩】

あはもりそう

一七九三 あはもり草【彩】

とりのねくさ おしくさ 鶏骨升麻

一七九四 とりのねくさ【彩】

あはほ みつふて 鬼臉升麻一種

「今道灌山飛鳥山及び王子山中等皆これあり」

一七九五 紹興本草所載茂州升麻

一七九六 あはほ【彩】

大葉升麻 日光升麻 鬼臉升麻

一七九七 大葉升麻【彩】

一種大葉升麻

一七九八 一種大葉升麻【彩】

蓮花升麻

一七九九 蓮花升麻【彩】

のせり はまあかな 苳胡

一八〇〇 かわらさいこ【彩】

のくさ 鎌倉柴胡 韭葉柴胡

一八〇一 紹興本草所載江寧府柴胡

一八〇二 同 丹州柴胡

一八〇三 のくさ【彩】

蚩草 大柴胡 南柴胡

一八〇四 ほたるさう【彩】

なき

一八〇五 なき【彩】

一八〇六 みつあふひ【彩】

ちくのミ ちくの木 いちくの いぬひは

むもれ木 天仙果

一八〇七 天仙果

秘伝花鏡所載

一八〇八 ちくのミ【彩】

一八〇九 一種長葉のもの【彩】

【第一一〇冊】草木部

われもかう

一八一〇 茅香【彩】

一八一 茅香【彩】

一八二 淄州茅香

經史証類大本本草卷第九草部中品

- 一八二三 丹州茅香
- 一八二四 崑崙軍茅香
- 一八二五 茅香
 - 三才圖會草木三卷草類
- 一八二六 茅類 ワレモカウ
- 一八二七 地榆 ワレモカウ
- 一八二八 蒼朮 ワレモカウ
- 一八一九 麝草 ワレモカウ
- すまる草 天門冬
- 一八二〇 きしかくし【彩】
 - うと つちたら 独活
- 一八二一 紹興本草所載鳳翔府独活
- 一八二二 うど【彩】
 - 大葉独活 文州独活
- 一八二三 紹興本草所載文州独活
- 一八二四 大葉独活【彩】
 - しゅうと しかな 茂州独活
- 一八二五 紹興本草所載茂州独活
- 一八二六 しゅうど【彩】
 - うともとき 高尾羌活 文州羌活
- 一八二七 紹興本草所載文州羌活
- 一八二八 うともとき【彩】
 - さかうと 増上寺白芷
- 一八二九 さかうと【彩】

【第一一冊】草木部

- さをひめ 地黄
- 一八三〇 さをひめ【彩】
 - ゑく ゑこ せり
- 一八三一 ゑく【彩】

おほゑミ やまゑミ あまな さざゆり(佐々)

- 百合) なるこゆり(鳴子百合) あまと
- ころ(甜野老) 黄精
- 一八三一 おほゑミ【彩】
- 一八三二 同 漢種【彩】
 - かたかこ みのしり かたくり かたこ 山慈姑
- 一八三四 かたかこ【彩】
 - あまき あまくさ 甘草 しろふじのね
- 一八三五 あまき【彩】
- 一八三六 同 福州種【彩】
 - ゑミくさ あまな からすゆり(烏百合)
- 一八三七 ゑミくさ【彩】
 - すゝゆり あまところ 女萎

【第一二冊】草木部

- あふひくさ かもあふひ 双葉細辛
- 一八三八 あふひくさ【彩】
 - ふたまかミ かんあふひ 杜薺
- 一八三九 紹興本草所載杜薺
- 一八四〇 ふたまかミ【彩】
- 一八四一 一種武州多摩郡之産【彩】
- 一八四二 一種ミソトば葉の物【彩】

【第一三冊】草木部

- こくさ ひめはき(姫萩) すゝめはき(雀萩)
- のちや(野茶) しばはき(芝萩)
- 遠志
- 一八四三 こくさ【彩】
 - かのにけくさ くまのい 人參
- 一八四四 広参品所載人參図

一八四五 同 上品人形根 中品人參根

- 一八四六 同 下品人形根 龜胸様人形根
- 一八四七 朝鮮人參耕作記所載野州日光山之人參
- 一八四八 同 不可根(ふかね) 一名不形(ふかたち) 居根(すわりね) 一名溜根(たまりね)
- 一八四九 高橋佐助人参伝所載直根参【彩】
- 一八五〇 朝鮮人參耕作記所載二十八年生ノモノ【彩】
 - 一八五一 佐藤成祐所写人參図 重百十五匁【彩】
 - 一八五二 同 重八十二匁【彩】
 - 一八五三 同 重五十匁【彩】
 - 一八五四 御種人參一年生 二年生【彩】
 - 一八五五 同 五年生【彩】
 - 一八五六 吉野人參【彩】
 - 一八五七 竹節人參【彩】

【第一四冊】草木部

- すくなひこのくすね いはとくさ 石斛
- 一八五八 紹興本草所載温州石斛
- 一八五九 すくなひこのくすね【彩】
 - むぎらん まめらん 麦斛
- 一八六〇 むぎらん【彩】
 - あのかつち こまのひさ 牛膝
- 一八六一 紹興本草所載懷州牛膝
- 一八六二 あのかつち【彩】
- 一八六三 柳葉牛膝【彩】
 - ミらのねくさ ミやまぬなは 細辛
- 一八六四 紹興本草所載華州細辛
- 一八六五 ミらのねくさ【彩】

【第一一五冊】草木部

をけら 白朮

一八六六 をけら 和白朮【彩】

一八六七 同 根【彩】

一八六八 あかをけら【彩】

一八六九 同 根【彩】

一八七〇 漢種蒼朮【彩】

一八七一 同 根(図なし)

一八七二 漢種白朮【彩】

一八七三 同 根【彩】

やますけ 麦門冬

一八七四 やますけ【彩】

一八七五 一種 大葉のもの也【彩】

一八七六 やふらん【彩】

一八七七 鼈甲蘭【彩】

をとをとし(乎止乎止之) 天麻

一八七八 後 をとをとし実【彩】

一八七九 前 をとをとし花【彩】

【第一一六冊】草木部

あさかほ 朝貌 ひるかほ 舜

一八八〇 (無題)(四種)【彩】

あさかほ 牽牛子

一八八一 牽牛子【彩】

一八八二 猩二紅【彩】

一八八三 袴着【彩】

一八八四 采請咲【彩】

一八八五 星月夜【彩】

一八八六 三重絞【彩】

一八八七 梅咲【彩】

一八八八 撫子咲【彩】

一八八九 井出の里【彩】

一八九〇 小形筒長【彩】

一八九一 菊咲【彩】

一八九二 桜咲【彩】

一八九三 牡丹咲【彩】

一八九四 台咲獅子【彩】

一八九五 切レ咲芭蕉葉【彩】

一八九六 桔梗咲鳳皇葉【彩】

一八九七 小形切咲【彩】

一八九八 桔梗咲【彩】

一八九九 竜胆咲【彩】

一九〇〇 孔雀【彩】

一九〇一 巻絹【彩】

一九〇二 石畳【彩】

一九〇三 采咲【彩】

一九〇四 糸咲【彩】

一九〇五 丁香茄 てうしあさかほ【彩】

【第一一七冊】草木部

あさかほ をかこつき 桔梗

一九〇六 桔梗【彩】

一九〇七 同 筒長【彩】

一九〇八 同 八重【彩】

一九〇九 白桔梗【彩】

一九一〇 同 八重【彩】

一九一一 同 絞【彩】

一九一二 同 八重【彩】

一九一三 同 淡黄色【彩】

一九一四 紋桔梗【彩】

一九一五 同 淡紅【彩】

いはくミ いはひば 巻柏

一九一六 紹興本草所載海州巻柏

一九一七 いはくミ【彩】

一九一八 紹興本草所載兗州巻柏

一九一九 とうけひは【彩】

まんねんさう

一九二〇 まんねんさう【彩】

一種万年草 千年松

一九二一 一種まんねんさう【彩】

ひかけかつら 狐のたすき 蘿

一九二二 ひかけかつら【彩】

【第一一八冊】草木部

あやめくさ そうふ 昌蒲

一九二三 そうふ【彩】

一九二四 せきしやう【彩】

【第一一九冊】草木部

かつミ 花かつみ

一九二五 かつみ【彩】

【第一二〇冊】草木部

一九二六 萩【彩】

一九二七 同 宮城野種【彩】

一九二八 同 斑花【彩】

一九二九 同 五月より咲もの【彩】

一九三〇 同 さらさ【彩】

一九三一 同 植樹家に宮城野と呼もの【彩】

一九三二 山萩【彩】

一九三三 救荒本草所載胡枝子

一九三四 蒔絵萩【彩】

一九三五 朝鮮はき 猫はき 鼠はき【彩】

- 一九三六 糸はき 糸喬二【彩】
- 一九三七 救荒本草所載糸喬蒿
- 一九三八 みやまはき【彩】(一部欠損)
- 一九三九 二葉萩【彩】(一部欠損)
- 一九四〇 救荒本草所載歪頭菜
- 一九四一 萩の木 こまはき【彩】
- をばな をきのはな 萑 荻
- 一九四二 荻【彩】
- 一九四三 同 都筑野産【彩】
- 一九四四 かや【彩】
- 一九四五 あふらかや【彩】
- 一九四六 あふらすき【彩】
- 一九四七 蕪 ひめよし【彩】
- 常正(岩崎常正 灌園)所写
- 一九四八 蕪 ひめよし【彩】
- 【第一二二冊】草木部
- 【第一二二冊】草木部
 - をみなへし ちめくさ 敗醬
 - 一九四九 女郎花 黄【彩】
 - 一九五〇 同 白【彩】
 - 一九五一 白山女郎花 もみち葉【彩】
 - 一九五二 春をミなへし(二種)【彩】
- 【第一二三冊】草木部
- 【第一二四冊】草木部
 - つしたま すんご 薏苡子
 - 一九五三 すんご【彩】
 - 一九五四 おにすんご【彩】
- 一九五五 薏苡仁【彩】
- やまついも つくねいも ぬかこ
- 一九五六 紹興本草所載永康軍薯蕷
- 一九五七 同 明州薯蕷
- 一九五八 同 眉州薯蕷
- 一九五九 同 滁州薯蕷
- 一九六〇 やまついも【彩】
- 一九六一 なかいも【彩】
- 一九六二 つくねいも【彩】
- ひらのにんしん ほとんにんしん 襄州防風
- 一九六三 防葵【彩】
- 一九六四 とかり防葵【彩】
- ひきよもぎ くさやつて 菴藷
- 一九六五 くさやつて【彩】
- なまゐ おもたか
- 一九六六 紹興本草所載沢瀉
- 五月六月八月採根陰乾
- 一九六七 同 齊州沢瀉
- 一九六八 同 邢州沢瀉
- 一九六九 おもたか【彩】
- 一九七〇 水沢瀉【彩】
- 一九七一 漢種沢瀉【彩】
- 【第一二五冊】草木部
 - ひゆ 菟
 - 一九七二 ひゆ 野菟【彩】
 - 一九七三 同 青莖【彩】
 - 一九七四 むらさきひゆ 紫菟【彩】
 - 一九七五 あをひゆ 青菟【彩】
 - 一九七六 白菟【彩】
 - 一九七七 琉球ひゆ【彩】
- 一九七八 あかひゆ 赤菟【彩】
- 一九七九 はけいとう 雁来紅【彩】
- 一九八〇 きかんらい 雁来黄【彩】
- 一九八一 にしきけいとう 十樣錦【彩】
- 一九八二 仙人穀 老鎗穀【彩】
- からかしは 葶麻
- 一九八三 からかしは【彩】
- 一九八四 からかしは 赤莖【彩】
- くすのき 樟
- 一九八五 くすの木【彩】
- 一九八六 同 実【彩】
- 【第一二六冊】草木部
 - あさ 大麻
 - 一九八七 あさ初生【彩】
 - 一九八八 同 五六月の物【彩】
 - 一九八九 さくらあさ【彩】
 - 一九九〇 実あさ【彩】
 - たふ たも たま
 - 一九九一 たふ 天竺桂【彩】
 - 一九九二 くさたみ【彩】
 - 三宅島産
 - 一九九三 あかたも【彩】
 - 一九九四 白たふ【彩】
 - くるもし
 - 一九九五 黒もし【彩】
 - 一九九六 同 開花【彩】
 - 一九九七 同 実【彩】
 - 一九九八 同 大葉【彩】
 - 一九九九 同 細葉【彩】
 - 二〇〇〇 白もし【彩】

二〇〇一 同 葉【彩】
二〇〇二 鳥つけしは【彩】

たうはぜ 烏田

二〇〇三 たうはせ 烏白【彩】

二〇〇四 同 実【彩】

二〇〇五 同 熟実并(ならびに)仁【彩】

しらすき こくどのくわし

二〇〇六 しらすき【彩】

な 菘菜

二〇〇七 なの花【彩】

二〇〇八 同 実【彩】

二〇〇九 あふらな【彩】

二〇一〇 からし【彩】

二〇一一 おほね【彩】

二〇一二 同 実【彩】

【第二七冊】草木部

あさゝ 蒼 荇

二〇一三 あさゝ【彩】

ひし 菱

二〇一四 ひし【彩】

二〇一五 野菱初生の物【彩】

二〇一六 菱実【彩】

二〇一七 菱実【彩】

二〇一八 蝙蝠菱【彩】

二〇一九 同 異種【彩】

二〇二〇 ひめひし【彩】

みつふくき 茨

二〇二一 みつふくき【彩】

【第二八冊】草木部

ひるむしろ ひるも 鷹舌 眼子菜

二〇二二 ひるむしろ(二種)【彩】

せきせうも へらも 苦草

二〇二三 せきせうも(二種)【彩】

蓮図

二〇二四 荷銭【彩】

二〇二五 藕荷【彩】

二〇二六 紅蓮【彩】

二〇二七 同 異種(三種)【彩】

二〇二八 白蓮【彩】

二〇二九 或画家所図【彩】

「文化十二乙亥(一八一五)晩夏

勢州山田清雲院の盆植の蓮開きて花

心より花卉を生し 其形あふひのこ

とくにしてあふひの文脈鮮紅に現然

たるに依て 増上寺大僧正の文あり

讃あり 其図存すれ八爰に附」

二〇三〇 張秋穀消夏三友所画【彩】

二〇三一 敗荷【彩】

二〇三二 藕【彩】

二〇三三 同 藕を裁切したる形状【彩】

二〇三四 蓮実 切て惹(蓮の胚芽)を出せる形

二〇三五 実生【彩】

双頭蓮

二〇三六 双頭蓮【彩】

つまへに くちへに へりとり 錦辺蓮

二〇三七 つまへに【彩】

二〇三八 同 黄蓮【彩】

毎葉蓮

二〇三九 毎葉蓮【彩】

芍薬蓮 湘妃蓮

二〇四〇 芍薬蓮【彩】

二〇四一 湘妃蓮【彩】

蜀紅蓮 斑蓮

二〇四二 蜀紅蓮【彩】

二〇四三 斑蓮【彩】

花戸称

二〇四四 天竺斑蓮【彩】

二〇四五 錦辺蓮【彩】

二〇四六 不忍池蓮【彩】

【第二九冊】草木部

も もは 藻

二〇四七 やなきも(三種)【彩】

二〇四八 まつも【彩】

二〇四九 同 異種(二種)【彩】

二〇五〇 たちも【彩】

二〇五一 同 異種【彩】

二〇五二 同 日光産【彩】

二〇五三 同

救荒本草所載

二〇五四 くしやくも【彩】

二〇五五 糸ひも【彩】

二〇五六 いらも【彩】

二〇五七 水豆児【彩】

二〇五八 みつんぼう【彩】

うきくさ 萍 蘋

二〇五九 うきくさ【彩】

二〇六〇 田字艸【彩】

二〇六一 紫背浮萍【彩】

二〇六二 同 異種【彩】

二〇六三 品字も【彩】

二〇六四 あかうき草 満江紅【彩】

二〇六五 さんしやうも【彩】

ひつしくさ 睡蓮 か八ほね 萍蓬草

二〇六六 ひつしくさ【彩】

二〇六七 かはほね【彩】

二〇六八 ひめかはほね【彩】

二〇六九 赤かはほね【彩】

二〇七〇 まる葉かはほね【彩】

【第一三〇冊】雑芸部

ご 囲碁

二〇七一 東大寺宝物図所載碁盤【彩】

二〇七二 同 吉備大臣将来碁盤【彩】

田楽

二〇七三 職人尺歌合所載田楽猿楽図【彩】

【第一三一冊】雑芸部・災異部

雑芸部 くさめはせ 鬮草

「いろいろの草をあつめてその中におな

し類の草とあはせて 最花のよきかたをか

たせしなるへし」

二〇七四 やすらひ花絵詞所載草合の図【彩】

あして書 ミつて うたゑ

二〇七五 四条大納言公任卿あして書【彩】

二〇七六 八条女院あしての御文

二〇七七 世尊寺伊行卿真跡朗詠集の下絵にあり

しつたゑ【彩】

「右真蹟奥書云 永暦元年（一一

六〇）四月二日右筆蹟之司農少卿伊

行

二〇七八 後京極殿筆の物にありしうたゑ【彩】

二〇七九 野宮家蔵葦手剣図

二〇八〇 香盆に火とりすへ様

二〇八一 香置

【第一三二冊】禽獣部

うくひす

二〇八二 うくひす【彩】

二〇八三 宋趙昌所画やまとうくひす【彩】

からうくひす（一名朝鮮うくひす 黄鳥）

二〇八四 黄鳥（三種）【彩】

【第一三三冊】禽獣部

ほととぎす 杜鵑

二〇八五 ほととぎす【彩】

仁木藤左衛門所養

二〇八六 同 常品【彩】

二〇八七 同【彩】

栗本瑞仙院写生

二〇八八 同 雌【彩】

【第一三四冊】禽獣部

【第一三五冊】禽獣部

【第一三六冊】禽獣部

ひはり 鶉

二〇八九 ひはり【彩】

喚子鳥 かつこう

二〇九〇 かつこう鳥【彩】

二〇九一 かつこう鳥【彩】

佐渡の産

つとり

二〇九二 つとり【彩】

有馬菅純朝臣蔵図

【第一三七冊】禽獣部（鷹）

尾

二〇九三（無題 尾の図）

二〇九四 同 鷹経弁疑抄云

二〇九五 しのふ尾

二〇九六 うへるの巣と云 しのふ尾

二〇九七 大弁慶巣と云 かけとり尾

二〇九八 小弁慶巣と云 ふちまき尾

二〇九九 しとと尾

二一〇〇 せきの巣共云 しとと尾

二一〇一 まちかた尾

二一〇二 あき巣と云 まちかた尾

二一〇三 やかた尾（二種）

二一〇四 もかミ巣と云 やかた尾

【第一三八冊】禽獣部（鷹）

きくけ さんめんきくけ くそふ毛

二一〇五 さんめんきく毛

生合の毛 鼻脇の毛

二一〇六 をひあひ

しとけ きつたての毛

二一〇七 きつはなし（しとけとも）

肩の毛 風払毛 山廻毛 山かた毛

二一〇八 一翼 二翼（鷹の肩の部位の図）

二二〇九 はつむろ 七なミ かつもり(同右)
二二一〇 風払毛 山廻毛

重銭の毛
「風払毛山廻毛の下にて覆羽の上の毛」

二二一一 重銭毛 覆羽 腋羽 翼羽
七並毛
二二一二 七並 あやの毛
河野家鷹図

【第一三九冊】禽獸部(馬)

骨度
二二一三 (無題 馬の図)
二二一四 同

伊勢家所伝馬書

二二一五 同
世宝集云ほねの名の次第

二二一六 同(骨の名称)
二二一七 骨名図
二二一八 骨度全図

二二一九 頭骨図【彩】
二二二〇 脆骨図【彩】

二二二一 腮車骨図【彩】
二二二二 脊梁骨図【彩】

二二二三 膊骨図【彩】
二二二四 槍風骨図【彩】

二二二五 脛脰骨図
二二二六 攢筋骨図

二二二七 髀骨 一名髀骨図【彩】
二二二八 髀骨図 一名腿脰骨

二二二九 腿脰骨図
二二三〇 鹿節骨図

足

二二三一 延宝三年(一六七五) 真田清兵衛所伝
馬医卷所載

爪之所

二二三二 (無題 立爪の図)
二二三三 (無題 ソリ爪の図)
二二三四 (無題 ヒラキ爪の図)
二二三五 (無題 爪の裏の図か)

【第一四〇冊】禽獸部(馬)

旋毛 つし
二二三六 世宝集所載旋毛図
二二三七 安驥集所載良馬旋毛之図

二二三八 伊勢家旋毛図

齒
二二三九 驥中括要集云一歳(の馬の齒 以下同)
【彩】

二二四〇 司牧安驥集云一歳口齒
二二四一 驥中括要集云二歳【彩】

二二四二 司牧安驥集云二歳口齒
二二四三 驥中括要集云三歳【彩】

二二四四 司牧安驥集云三歳口齒
二二四五 驥中括要集云四歳【彩】

二二四六 司牧安驥集云四歳口齒
二二四七 驥中括要集云五歳【彩】

二二四八 司牧安驥集云五歳口齒
二二四九 驥中括要集云六歳【彩】

二二五〇 司牧安驥集云六歳口齒
二二五一 驥中括要集云七歳【彩】

二二五二 司牧安驥集云七歳口齒
二二五三 驥中括要集云八歳【彩】

二二五四 司牧安驥集云八歳口齒

二二五五 驥中括要集云九歳【彩】

二二五六 司牧安驥集云九歳口齒

二二五七 驥中括要集云十歳【彩】

二二五八 司牧安驥集云十歳口齒

二二五九 驥中括要集云十一歳【彩】

二二六〇 司牧安驥集云十一歳口齒

二二六一 驥中括要集云十二歳【彩】

二二六二 司牧安驥集云十二歳口齒

二二六三 驥中括要集云十三歳【彩】

二二六四 司牧安驥集云十三歳口齒

二二六五 驥中括要集云十四歳【彩】

二二六六 司牧安驥集云十四歳口齒

二二六七 驥中括要集云十五歳【彩】

二二六八 司牧安驥集云十五歳口齒

二二六九 驥中括要集云十六歳【彩】

二二七〇 司牧安驥集云十六歳口齒

二二七一 驥中括要集云十七歳【彩】

二二七二 司牧安驥集云十七歳口齒

二二七三 驥中括要集云十八歳【彩】

二二七四 司牧安驥集云十八歳口齒

二二七五 驥中括要集云十九歳【彩】

二二七六 司牧安驥集云十九歳口齒

二二七七 驥中括要集云二十歳【彩】

二二七八 司牧安驥集云二十歳口齒

二二七九 驥中括要集云廿一歳【彩】

二二八〇 司牧安驥集云廿一歳口齒

二二八一 驥中括要集云廿二歳【彩】

二二八二 司牧安驥集云廿二歳口齒

二二八三 驥中括要集云廿三歳【彩】

二二八四 司牧安驥集云廿三歳口齒

二二八五 驥中括要集云廿四歳【彩】
二二八六 司牧安驥集云廿四歳口齒

二二八七 又云廿五歳口齒
二二八八 又云廿六歳口齒
二二八九 又云廿七歳口齒

二二九〇 又云廿八歳口齒
二二九一 又云廿九歳口齒
二二九二 又云三十歳口齒

二二九三 又云卅一歳口齒
二二九四 又云卅二歳口齒

【第一四一冊】禽獸部(馬)

牧馬印

二二九五 糠部馬印之図

二二九六 かた車

二二九七 おりかけ くれへ

二二九八 かた車異体歟

二二九九 (無題)

二三〇〇 いなりの中のすちかへ

二三〇一 (無題 四種)

二三〇二 せいもく

二三〇三 (無題)

二三〇四 (無題 七種)

今所用野馬焼印

二三〇五 小金牧

蛇沢/笠(地名等/図の焼印名 以

下同) 高田台/琴柱 中野/千鳥

下野/輪違 印西/瓢箪

二二〇六 佐倉牧

内野/亀甲 高野/蕨手 柳沢/団

扇 小間子/分銅 取香/地紙 矢

二二〇七 作/矢筈 油田/三日月
峯岡牧

峯岡筋/安ノ字 仙台種/角繫本名
目結(馬種/焼印名 以下同) 南
部種/飛雀 伯兒齊唾(ヘルシャ)

羽折雀 三春種/雁金

二二〇八 芦高牧

元野/山形 尾上/雲 霞野/霞

くろけ馬

二二〇九 驪黄物色図説所載黒馬【彩】

二二一〇 大坪本流馬相図所載クロケ馬【彩】

二二一一 大坪本流馬相図絵異本所載クロケ馬

【彩】

二二一二 同 カラスクロ【彩】

二二一三 華陽皮相所載驪馬【彩】

くろみとり馬

二二一四 大坪本流馬相図絵所載クロミトリ馬

【彩】

二二一五 華陽皮相所載駟馬【彩】

二二一六 驪黄物色図説所載駟馬【彩】

くり毛馬

二二一七 驪黄物色図説所載駟馬【彩】

二二一八 大坪本流馬相図絵所載駟馬【彩】

二二一九 華陽皮相所載駟馬【彩】

くろくりけ馬

二二二〇 驪黄物色図説所載紫駟馬【彩】

二二二一 大坪本流馬相図絵所載クロクリ毛馬

【彩】

あかくりけ馬

二二二二 驪黄物色図説所載黄駟【彩】

二二二三 大坪本流馬相図絵所載アカクリケ馬

二二三四 大坪本流馬相図絵所載シラクリケ馬
【彩】

【第一四二冊】禽獸部(馬)

かけ馬

二二三五 大坪本流馬相図絵所載駟馬【彩】

二二三六 華陽皮相所載駟馬【彩】

しらかけ馬

二二三七 驪黄物色図説所載驪馬【彩】

二二三八 大坪本流馬相図絵所載驪馬【彩】

二二三九 華陽皮相所載驪馬【彩】

あかかけ馬

二三四〇 驪黄物色図説所載赤驪馬【彩】

二三四一 大坪本流馬相図絵所載赤驪馬【彩】

くろかけ馬

二三四二 驪黄物色図説所載驪馬【彩】

二三四三 大坪本流馬相図絵所載驪馬【彩】

二三四四 華陽皮相所載驪馬【彩】

あしけ馬 みたらをの馬

二三四五 驪黄物色図説所載驪馬【彩】

二三四六 大坪本流馬相図絵所載驪馬【彩】

二三四七 大坪本流馬相図絵異本所載驪馬【彩】

二三四八 華陽皮相所載驪馬

しらあしけ馬

二三四九 驪黄物色図説所載白驪【彩】

二四〇 大坪本流馬相図絵所載白驪【彩】

尾花あしけ馬

二四一 驪黄物色図説所載黄驪【彩】

二四二 大坪本流馬相図絵所載黄驪【彩】

- 二二四三 同 黄驄別種【彩】
- 二二四四 華陽皮相所載黄驄【彩】
- ねつみ毛馬
- 二二四五 驪黄物色図説所載驪馬【彩】
- 二二四六 大坪本流馬相図絵所載驪馬【彩】
- 二二四七 同 驪馬別種【彩】
- 二二四八 華陽皮相所載驪馬【彩】
- つき毛馬
- 二二四九 驪黄物色図説所載驪馬【彩】
- 二二五〇 華陽皮相所載驪馬【彩】
- あかつきけ馬
- 二二五一 驪黄物色図説所載赭黄馬【彩】
- 二二五二 大坪本流馬相図絵所載赭黄馬【彩】
- さひつきけ馬
- 二二五三 驪黄物色図説所載宿駮馬【彩】
- 二二五四 大坪本流馬相図絵所載宿駮馬【彩】
- とろつきけ馬 くるつきけ馬
- 二二五五 大坪本流馬相図絵所載トロッキケ馬
- 【彩】
- またらつきけ馬
- 二二五六 驪黄物色図説所載斑駮馬【彩】
- 二二五七 大坪本流馬相図絵所載斑駮馬【彩】
- 太白つきけ馬
- 二二五八 大坪本流馬相図絵所載シラツキケ馬
- 【彩】
- 二二五九 華陽皮相所載驪馬【彩】
- 【第一四三冊】禽獸部(馬)
- ミツあをけ馬 驪
- 二二六〇 驪黄物色図説所載駟馬【彩】
- 二二六一 大坪本流馬相図会所載ミツアラマ【彩】
- 二二六二 華陽皮相所載駟【彩】
- あをくるけ馬 駟
- 二二六三 驪黄物色図説所載駮馬【彩】
- 二二六四 大坪本流馬相図会所載アヲク口馬【彩】
- 二二六五 華陽皮相所載駮馬【彩】
- くろあしけ馬 鶉
- 二二六六 驪黄物色図説所載鶉【彩】
- 二二六七 大坪本流馬相図会所載烏驄【彩】
- 二二六八 華陽皮相所載鶉【彩】
- れんせんあしけ馬 驢
- 二二六九 驪黄物色図説所載連錢驄【彩】
- 二二七〇 大坪本流馬相図会所載連錢驄【彩】
- 二二七一 華陽皮相所載連錢驄【彩】
- とらけ馬
- 二二七二 今所考定とらけ馬【彩】
- 二二七三 今所考定とらけ馬一種【彩】
- 二二七四 驪黄物色図説所載斑駮驢【彩】
- 二二七五 同 斑駮【彩】
- 二二七六 同 斑駮【彩】
- 二二七七 大坪本流馬相図会所載斑駮【彩】
- 二二七八 同 斑駮【彩】
- 二二七九 同 斑駮【彩】
- ひはりけ馬
- 二二八〇 (無題 馬の図)
- 二二八一 驪黄物色図説所載驪馬【彩】
- 二二八二 大坪本流馬相図会所載驪馬【彩】
- 二二八三 華陽皮相所載驪馬【彩】
- あをひはりけ馬
- 二二八四 今所考定あをひはりけ馬【彩】
- 二二八五 驪黄物色図説所載驪馬【彩】
- 二二八六 大坪本流馬相図会所載青驪【彩】
- あしけひはりけ馬
- 二二八七 驪黄物色図説所載驪馬【彩】
- 【第一四四冊】禽獸部(馬)
- くりけひはりけ馬
- 二二八八 今所考定くりけひはりけ馬【彩】
- 二二八九 驪黄物色図説所載黄驛馬【彩】
- 二二九〇 大坪本流馬相図会所載驛馬【彩】
- かけひはりけ馬
- 二二九一 今所考定かけひはりけ馬【彩】
- くるひはりけ馬
- 二二九二 今所考定くるひはりけ馬【彩】
- 二二九三 驪黄物色図説所載驛馬【彩】
- 二二九四 大坪本流馬相図会所載驛馬【彩】
- 二二九五 華陽皮相所載驛馬【彩】
- つきけひはりけ馬
- 二二九六 今所考定つきけひはりけ馬【彩】
- しろひはりけ馬
- 二二九七 今所考定しろひはりけ馬【彩】
- 二二九八 驪黄物色図説所載駮馬【彩】
- 二二九九 華陽皮相所載駮馬【彩】
- 赤ひはりけ馬
- 三三〇〇 今所考定赤ひはりけ馬【彩】
- 三三〇一 驪黄物色図説所載驛馬【彩】
- あかけ馬 驛
- 三三〇二 今所考定あかけ馬【彩】
- 三三〇三 驪黄物色図説所載驛馬【彩】
- 三三〇四 華陽皮相所載驛馬【彩】
- 赤かけ馬
- 三三〇五 今所考定あかけ馬【彩】
- かうしあかけ馬 驛

一三〇六 驪黄色図説所載驛【彩】

一三〇七 大坪本流馬相図会所載驛【彩】

一三〇八 華陽皮相所載驛【彩】

山とりあかけ馬 赤驛

一三〇九 驪黄色図説所載赤驛【彩】

一三一〇 大坪本流馬相図会所載赤驛【彩】

【第一四五冊】禽獣部

かしか 鹿

一三一〇 紹興本草所載鹿

一三一一 しか【彩】

しろしか 白鹿

一三一二 白しか【彩】

【第一四六冊】禽獣部

ふるもちのぬ ぶた 豕

一三二四 紹興本草所載豚【彩】

一三二五 ふた【彩】

一三二六 白ふた【彩】

一三二七 ふちふた(斑豚)【彩】

ひつし 羊

一三二八 紹興本草所載殺羊【彩】

一三二九 ひつし【彩】

むくひつし やき 夏羊

一三三〇 むくひつし【彩】

さいのこま 綿羊

一三三一 さいのこま(二種)【彩】

一三三二 綿羊【彩】

黒駁の物

【第一四七冊】禽獣部

かましゝ かもしか 麀羊

一三三三 尔足図所載麀羊

一三三四 紹興本草所載麀羊

一三三五 かましゝ【彩】

一三三六 かましゝ角【彩】

一三三七 神羊角【彩】

舶来の物

ゐ ゐのしゝ 猪

一三三八 野猪【彩】

一三三九 白野猪【彩】

【第一四八冊】禽獣部

くま

一三三〇 紹興本草所載熊【彩】

一三三一 熊【彩】

一三三二 白熊【彩】

駱駝 らくたのつま

一三三三 三才図会所載駱駝

一三三四 三才図会所載駱駝

一三三五 安驥文海(駱駝図)(袋綴じの中に挿入)

一三三六 山海経所載橐駝図

一三三七 享和三年(一八〇三)舶来駱駝【彩】

長崎人所写

一三三八 文政四年(一八二二)舶来駱駝牡【彩】

一三三九 同牝【彩】

一三四〇 宋李公麟画駱駝【彩】

一三四一 元趙成潤胡笳十八拍図駱駝【彩】

一三四二 清馬元欽画塞外図所載駱駝【彩】

一三四三 影宋鈔尔疋音図所載犛牛

即封牛

一三四四 長崎見聞録所載犛牛

即犛牛

一三四五 (無題)上歯の図

【第一四九冊】菜蔬部

こみら いら 韭

一三四六 こみら【彩】

おほみら らつきよ 薺

一三四七 おほみら【彩】

一三四八 らつきよ【彩】

うはき よめかはき 薺膏

一三四九 よめな【彩】

一三五〇 おとよめな【彩】

一三五一 白花よめな【彩】

【第一五〇冊】菜蔬部

すゝな かふな

一三五二 (無題)五種【彩】

なつな

一三五三 あしなつな からなつな【彩】

一三五四 くんはいなつな【彩】

一三五五 (無題)【彩】

一三五六 なつな【彩】

一三五七 おほなつな【彩】

一三五八 からなつな【彩】

【第一五一冊】菜蔬部

せり 根白草 芹

一三五九 (無題)五種【彩】

田平子 かはらかな一名仏の座 雞腸草地

しはり

一三六〇 かはらけな【彩】

早春のもの

一三六一 同

一三六二 苦菜【彩】

一説田ひら

一三六三 文永(一二六四 七五) 奥書馬書所載

仏座【彩】

一三六四 喜蘭草【彩】

一三六五 かすみくさ【彩】

早春のもの

一三六六 同【彩】

一三六七 同 一種【彩】

花小なる物

一三六八 風輪菜【彩】

一説仏の座

はくへら はこへ 繁縷

一三六九 はくへら【彩】

早春のもの

一三七〇 はくへら【彩】

一三七一 うしはこへ【彩】

一三七二 一種こめな【彩】

一三七三 大山はこへ【彩】

一三七四 こなすひ【彩】

【第一五二冊】菜蔬部

母子草 おきやう ほつこくさ 鼠麴草

一三七五 早春のもの【彩】

一三七六 はこくさ【彩】

一三七七 ちこくさ【彩】

すししろ おほね 蘿蔔

一三七八 (無題 大根の図)【彩】

一三七九 同 花【彩】

一三八〇 同 白花のもの【彩】

一三八一 三月大根【彩】

一三八二 夏大根【彩】

一三八三 波多野大根【彩】

一三八四 あか大根【彩】

【第一五三冊】菜蔬部

ぬなは 蓴 蓴菜 茆

一三八五 ぬなは【彩】

一三八六 同 花【彩】

【第一五四冊】虫介部

白亀

一三八七 武州葛飾郡本所合羽干場字者金子堀所

捕【彩】

白亀甲

一三八八 同 裏【彩】

一三八九 武州葛飾郡押上村之内所獲白亀【彩】

一三九〇 白亀【彩】

出所不詳

【第一五五冊】虫介部

一三九一 和漢三才図会所載珠鼈

一三九二 同 三足鼈

一三九三 同 納鼈

うみかめ おほかめ 蟠蟻

一三九四 うみかめ【彩】 安房国于海中所獲之物年月不詳

おほかめ えかめ 元龜

一三九五 おほかめ【彩】

天保甲午(一八三四) 伊豆国真鶴之

於洋中下網所獲写生

瑠璃 文甲

一三九六 越後国産【彩】

一三九七 或家蔵【彩】

佐渡国産

一三九八 同 裏【彩】

一三九九 伊豆島日記所載図【彩】

玳瑁の龜也

【第一五六冊】虫介部

毛龜 みのかさ 緑毛龜

一四〇〇 毛龜【彩】

一四〇一 海乃幸所載毛龜【彩】

一四〇二 毛龜異種【彩】

文政七年(一八二四) 秋岩崎常正所

捕の物

一四〇三 同 裏【彩】

黄龜

一四〇四 黄龜【彩】

一四〇五 同 裏【彩】

こかめ 撰龜

一四〇六 和漢三才図会所載撰龜

みつあしの龜 三足龜 六足龜

一四〇七 和漢三才図会所載黄龜

かほかめ

一四〇八 すつぼん【彩】

一四〇九 龜【彩】

一四一〇 (同 裏)

【第一五七冊】虫介部

こほろき 蜻蛉

二四一一 こほろき雌雄【彩】

いとゞ 鼯馬

二四一二 いとゞ雄【彩】

二四一三 同 雌【彩】

はたをりめ 促織

二四一四 はたをりめ アブラ ヤブ【彩】

きりきりす 蟋蟀 蝻

二四一五 きりきりす雄雌【彩】

二四一六 一種カタサセスソサセとなくもの雄雌

【彩】

二四一七 ひめこほろき【彩】

【第一五八冊】竜魚部

かつを かたいうを 堅魚 鯉

二四一八 かつを【彩】

二四一九 すち鯉【彩】

二四二〇 うつわかつを【彩】

二四二一 そうたかつを【彩】

二四二二 星かつを【彩】

かぢきどほし 鮪 鮓 鱒 鱒

二四二三 かちきどほし【彩】

二四二四 白かちき 黒皮【彩】

二四二五 めかちき【彩】

てふさめ 鱧

二四二六 てふさめ【彩】

鮪

二四二七 しび【彩】

二四二八 めしか【彩】

二四二九 ひんが【彩】

二四三〇 めばち【彩】

【第一五九冊】竜魚部

からかこ ぎょう かしか 鯛

二四三一 栗本瑞仙院所蔵ぎょうの子図(二種)

【彩】

二四三二 ぎょう【彩】

綾瀬川産

二四三三 湖中産物図説所蔵ぎょう(二種)【彩】

二四三四 ぎょう【彩】

海産乃物

二四三五 同 あかさ【彩】

二四三六 一種ぎょう【彩】

海産の物

いしふし ころり 鱈

二四三七 いしふし【彩】

二四三八 同 江戸川の産【彩】

二四三九 同 小石川の産【彩】

二四四〇 のめさ

加賀の方言【彩】

二四四一 いしふし

近江国琵琶湖の産【彩】

二四四二 同 上野国伊勢崎の産【彩】

二四四三 山かち

武蔵国秩父方言【彩】

二四四四 むつころろ

筑後国柳川産【彩】

二四四五 山海名産図会所載石伏ころり

二四四六 同 加茂川鮪捕之図

二四四七 同 予州大洲石伏捕之図

二四四八 同 加賀浅野川鮪捕之図

かんぶつ ころり 抱石魚

二四四九 かんぶつ【彩】

琵琶湖の産

二四五〇 抱石魚【彩】

江戸川の産

ちゝかぶり だぼはぜ 鱒 泥魚

二四五一 ちゝかぶり【彩】

二四五二 同 斑点ある物【彩】

二四五三 同 しまはぜと呼もの【彩】

二四五四 だぼはぜ黒色の物【彩】

二四五五 あぶらはぜ【彩】

【第一六〇冊】竜魚部

かじか かじい 石伏魚

二四五六 かじか【彩】

野州烏山産

二四五七 同(かじか)【彩】

二四五八 栗本瑞仙院所蔵かじか図【彩】

滝の川産

二四五九 同(かじか)【彩】

二四六〇 かじか【彩】

越後国糸魚川産

二四六一 同 加賀国産【彩】

二四六二 同 上野国伊勢崎産【彩】

二四六三 湖中産物図説所蔵かじか【彩】

二四六四 かくぶつ【彩】

越前国産

とほ とんほ かじか 杜父魚

二四六五 杜父魚【彩】

近江国琵琶湖産

二四六六 同 余吾湖の産【彩】

二四六七 栗本瑞仙院所蔵杜父魚図【彩】
二四六八 随観写真所載ヤブクヰリ【彩】

石州産
二四六九 同(ヤブクヰリ)【彩】

【第一六一冊】飲食部
つはいもちひ(椿餅) 葉形餅

二四七〇 享保十二年(一七二七) 御再興子日御
遊之図所載椿餅

二四七一 或書に載たる椿餅の図
二四七二 遊翁宗川の図せる所椿餅

まかり
二四七三 大膳職供膳図【彩】
二四七四 集古図

大膳職所製
二四七五 同 鴨社所載
二四七六 同 滋野井公麗卿検出

二四七七 (無題) 諸国奇遊談所載から菓子

【第一六二冊】飲食部
葱葱(ネギ) 乳 伎

二四七八 葱葱【彩】
二四七九 行者にんにく【彩】

大蒜 葫 にんにく
二四八〇 にんにく【彩】

蘭葱
二四八一 山蒜【彩】
二四八二 ひる【彩】

興渠
二四八三 ウエインマン所蔵阿魏

【第一六三冊】政事部
十列 とをつら

「走馬競馬と同芸一物なれとも其乗さま
人数の分別あるによりて各その名を異にせ
り」

二四八四 春日若宮祭礼図所載十列次第(細男六
騎・馬長児五騎等の図)

【第一六四冊】政事部

【第一六五冊】政事部
飾馬

二四八五 春日社所繪唐鞍飾馬(二種)【彩】
二四八六 年中行事二宮大饗繪唐鞍飾馬【彩】

二四八七 同 臨時祭唐鞍飾馬【彩】
二四八八 加茂祭繪所載飾馬【彩】

二四八九 東大寺八幡宮縁起所載飾馬【彩】

【第一六六冊】服飾部
もみえほし 委烏帽子 引立えほし 推入

えほし 引入えほし へりぬりえほし なし
打えほし うち梨えほし えほし引立 折え
ほし引立 もみえほし引立

二四九〇 円融院御代所画委烏帽子【彩】
二四九一 八幡太郎義家朝臣像委烏帽子【彩】

出所不詳
二四九二 或家所蔵古代委烏帽子漆塗紙
表黒 裏ウルミ

二四九三 同 裏ノ形
二四九四 同 折方

二四九五 高松藩土真部五郎祐重蔵委烏帽子裁端

摹摺
「顕微鏡にうつしてこれを展拓す」
として拡大図を載せる。

二四九六 本朝軍器考図式所載縁塗烏帽子【彩】
一条殿下所持

たてえほし 立烏帽子
二四九七 橘嘉樹立烏帽子説画

二四九八 立烏帽子
延徳年中(一四八九 九二) 烏帽子
雛形十二ノ内

二四九九 和漢三才図会所載立烏帽子【彩】
二五〇〇 集古十種所載立烏帽子【彩】

鎌倉補陀羅迦寺蔵源頼朝卿像
二五〇一 同 所載立烏帽子【彩】
蔵末詳 万里小路藤原藤房卿像

二五〇二 同 所載立烏帽子【彩】
山城国知恩寺蔵日野藤原勝光公像

おりえほし 折烏帽子 風折烏帽子
二五〇三 右折烏帽子

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内
二五〇四 同 折方
二五〇五 左折烏帽子

(延徳年中烏帽子雛形十二ノ内)
二五〇六 同 折方
二五〇七 角折烏帽子

(延徳年中烏帽子雛形十二ノ内)
二五〇八 同 折方
二五〇九 中折烏帽子

(延徳年中烏帽子雛形十二ノ内)
二五一〇 同 折方
二五一一 折烏帽子

〔延徳年中烏帽子雛形十二ノ内〕

二五二二 同 折方

二五二三 折烏帽子

〔延徳年中烏帽子雛形十二ノ内〕

此一品甲斐国塩山麓百姓所持

二五二四 同 折方

二五二五 和漢三才図会所載風折烏帽子【彩】

【第一六七冊】服飾部

やなぎさひ 柳佐比

「やなぎさひは軽きものゝ用ゆるえほし」

二五一六 和漢三才図会所載柳佐比【彩】

はくてうえほし 白丁烏帽子 鍬形

二五一七 秦兼任所着白丁烏帽子【彩】

隨身庭騎図

なかえほし 長烏帽子

二五一八 「延徳年中烏帽子古式といへる図のう

ちに長えほしと題せし図有」として挙

げる図

ほそえほし 細烏帽子

二五一九 後三年合戦図所載細烏帽子（二種）

【彩】

こゆひえほし 小結烏帽子

二五二〇 和漢三才図会所載小結烏帽子

長小ゆひえほし 長小結烏帽子

二五二一 伊勢家元服法式書所見小結烏帽子

二五二二 投烏帽子

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

二五二三 同 折方

二五二四 端芝烏帽子

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

二五二五 同 折方

二五二六 卑陋烏帽子

二五二七 延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

二五二八 同 折方

トツハイ烏帽子

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

さむらひえほし 侍烏帽子 なつとうえほ

し

二五二九 侍烏帽子

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

二五三〇 同 折方

二五三一 古代侍烏帽子雛形

二五三二 同 横ノ図

二五三三 同 折方

二五三四 古折烏帽子本体【彩】

或家蔵巻物図式絵 貞文所謂侍烏帽

子

二五三五 同 正面図式【彩】

二五三六 同 右ノ側【彩】

二五三七 同 左ノ側【彩】

二五三八 同 左工折ル【彩】

二五三九 同 右工折ル【彩】

二五四〇 同 左ノ側【彩】

二五四一 同 正面ヲ折成就也【彩】

二五四二 同 右ノ側【彩】

二五四三 同 左ノ側【彩】

ひたいえほし 額烏帽子

二五四四 安斎隨筆所載額烏帽子

引年中行事土佐光長図

【第一六八冊】服飾部

ひれ 平礼

二五四五 平礼

延徳年中烏帽子雛形十二ノ内

二五四六 同 折方

二五四七 集古十種所載柿本人麿像

山城国寂光寺蔵

二五四八 同 源義経像【彩】

陸奥国平泉開山中尊寺蔵

二五四九 平礼（二種）【彩】

菱烏帽子

二五五〇 梨打烏帽子の事

二五五一 梨打烏帽子

「近江国坂本村来迎寺の宝物 円

融院の御代に画かゝせられし六道の

図の中に梨打えほし着たる武者あり」

二五五二 引立烏帽子の事

二五五三（無題）近江国来迎寺宝物六道の図の

うち引立烏帽子の図）

【第一六九冊】服飾部

【第一七〇冊】服飾部

十徳

二五五四 梅宮神主肥後守経亮所蔵十徳

二五五五 伊勢家所伝十徳

二五五六 奥昇人夫所用十徳

紗十徳

二五五七 京都或家所蔵黒紗十徳

相伝云紹鷗遺物

二五五八 瓦礫雑考所載黒紗十徳

かたきぬはかま 上下

二五五九 一遍上人絵伝所載肩衣袴【彩】

二五六〇 京都五条八幡宮蔵將軍家社參絵所載肩衣袴【彩】(彩色図を貼付)

伝云天文永祿中物

二五六一 織田右府像【彩】

二五六二 豊臣大閣肩衣【彩】

所賜大蔵大夫

二五六三 松浦家蔵肩衣袴【彩】

二五六四 同 四幅袴

かちん肩衣袴

二五六五 犬追物絵所載肩衣袴(二種)【彩】

継上下

二五六六 法然上人二巻伝所載肩衣袴(二種)【彩】

融通念仏縁起所載肩衣【彩】

二五六七

【第一七一冊】人事部

御宮参

二五六八 神馬引様の図【彩】

二五六九 荷から櫃の図【彩】

二五七〇 長唐櫃の図【彩】

【第一七二冊】人事部(後半に「病痾部」)

【第一七三冊】人事部(放鷹)

【第一七四冊】人事部(放鷹)

野行幸

二五七一 土佐光信筆屏風鷹狩図縮写
野行幸御装束 諸臣装束

二五七二 年中行事絵所載鷹飼【彩】

二五七三 古絵本所載鷹飼【彩】

二五七四 十界絵所載鷹飼【彩】

二五七五 曾我物語絵所載鷹飼【彩】

二五七六 繫馬絵所載鷹飼【彩】

二五七七 春日験記所載鷹飼【彩】

【第一七五冊】人事部(放鷹)

【第一七六冊】人事部(放鷹)

療治

二五七八 (無題 灸のツボの図か)

二五七九 鷹相形図云

二五八〇 ハナタケノ療治

二五八一 小風ノリヤウシ(療治)

二五八二 タケノリヤウシ

二五八三 胴タケノレウチ(療治)

二五八四 大風ノレウジ

二五八五 大風ノ灸所

二五八六 クソクケノ灸所(二種)

二五八七 ヨコシノ灸所

二五八八 キツハナシノ灸所(三種)

二五八九 (無題 灸所の図)(八種)

二五九〇 鷹骨度・背

二五九一 同 腹

二五九二 同 背

二五九三 同 腹

鳥着柴 「鳥つけ柴八鷹を付る木なり」

二五九四 鳥一羽着図

二五九五 鷹経弁疑論所載春鳥柴付之図

二五九六 秋冬鳥付柴之図

二五九七 河野五郎左衛門通丸鷹書所載花枝二鳥付タル図

二五九八 草花二鳥付ル図

是八別テ故実ト云秘スヘキ伝ナリ

二五九九 日根野標心鷹書所載鳥付柴図

二六〇〇 吉田多右衛門家元鷹書所載鳥柴図

二六〇一 祢津神平鷹絵図所載諏訪費鳥図

二六〇二 伊勢貞丈所図鳥柴付図

二六〇三 御鳥掛役鳥付柴図

兔鳥付柴

二六〇四 鷹経弁疑論所載兎着鳥柴図(二種)

小鳥掛 鳥土産 鶉人物

二六〇五 持明院基春卿鷹書所載鶉竹二挟ミタル図

二六〇六 鷹経弁疑論所載鶉荻二付図

二六〇七 同 雀竹二付タル図

二六〇八 河野五郎左衛門通丸鷹書所載鶉雲雀竹二挟タル図

二六〇九 同 鶉菊に付たる図

二六一〇 吉田多右衛門家元鷹書所載鶉竹二挟図

二六一一 日根野標心鷹書所載鶉を花の折枝に付たる図

二六一二 同 雲雀木に付たる図

二六一三 神平流鷹書所載鶉竹二挟図

二六一四 同 鶉荻二付図

二六一五 祢津神平鷹絵図所載雲雀挟図

鳥土産 付鶉人物

二六一六 吉田多右衛門家元鷹書所載鶉装にしたる図

山緒 田緒

二六一七 持明院基春卿鷹書所載雄雉山緒掛たる

図

二六一八 同 雌雉山緒掛たる図

二六一九 河笠五郎左衛門通丸鷹書所載山緒掛たる

図

二六二〇 同 犬の唖たる鳥藤にて田物かけにする

図

二六二一 同 山緒掛たる図

二六二二 神平流鷹絵図所載山緒図

二六二三 鷹用千方所載山緒図

二六二四 無名鷹書所載餌指掛様の図

二六二五 同 鶯餌指掛様の図

田緒

二六二六 持明院基春卿鷹書所載鷺田緒掛たる図

二六二七 鷹用千方所載鷺田緒掛たる図

二六二八 河笠五郎左衛門通丸鷹書所載鶴鴻田緒

掛たる図

二六二九 同 繩にて田緒かけたる図

二六三〇 同 稲穂にて田緒かけたる図

二六三一 無名鷹書所載田鳥掛様の

兔山緒

二六三二 持明院基春卿鷹書所載兔山緒かけたる

図(四種)

二六三三 責鷹似鳩拙抄所載兔山緒かけたる図

(二種)

二六三四 吉田多右衛門家元鷹書所載兔山緒掛たる

図

【第一七七冊】人事部(放鷹)

鷹請取渡の礼

二六三五 無名鷹書所載足革鷹請取渡図(二種)

二六三六 同 大緒差たる鷹請取渡図(三種)

二六三七 同 鷹代の鷹受取渡図

二六三八 同 白鷹并白鷹鷹請取渡図

二六三九 同 上藤の鷹請取渡図

鷹鳥請取渡の礼

二六四〇 鷹経弁疑論所載鷹鳥雌雄載台図

二六四一 同 田鳥載台図

鳥屋 放鳥屋 蒸鳥屋

二六四二 祢津神平鷹絵図所載とや

二六四三 波多野筑後守尚政鷹書所載鳥屋

【第一七八冊】人事部(放鷹)

餌かひやう

二六四四 鳴の飼様

【第一七九冊】

『庶物類纂図翼』絵図細目

【第一冊】草部一

甘草/甘草 俗名・阿万木(あまき)

黄耆/黄耆 俗名・古末米豆流(こまめづる)

黄耆/黄耆 俗名・古末米豆流(こまめづる)

人參/人參 俗名・加乃仁介久佐(かのにけぐさ)

人參/人參 俗名・久末乃伊(くまのい)

沙參/沙參 俗名・止止木(ととぎ)

沙參/沙參 俗名・止止木(ととぎ)

羊乳根/羊乳根 俗名・都里加祢賀豆良(つりが

ねかずら)

羊乳根/羊乳根 俗名・都里加祢賀豆良(つりが

桔梗/桔梗 俗名・阿里乃比布木(ありのひふき)

桔梗/桔梗 俗名・阿里乃比布木(ありのひふき)

黄精/黄精 俗名・奈流古由里(なるこゆり)

黄精/黄精 俗名・奈流古由里(なるこゆり)

萎蕤/萎蕤 俗名・阿末止古呂(あまどころ)

知母/

赤箭/赤箭 俗名・須知奈(すじな)

朮/朮 俗名・平介良(おけら)

朮/朮 俗名・平介良(おけら)

朮/朮 俗名・平介良(おけら)

朮/朮 俗名・平介良(おけら)

朮/朮 俗名・平介良(おけら)

狗背/

貫衆/貫衆 俗名・幾之乃於(きじのお)

【第二冊】草部二

巴戟天/巴戟天 俗名・志由須祢乃木(じゅすね

のき)

遠志/遠志 俗名・須須女波木(すずめはぎ)

百脉根/百脉根 俗名・美也古波奈(みやこばな)

淫羊藿/淫羊藿 俗名・伊加里久佐(いかりぐさ)

淫羊藿/淫羊藿 俗名・伊加里久佐(いかりぐさ)

淫羊藿/淫羊藿 俗名・伊加里久佐(いかりぐさ)

玄參/玄參 俗名・於之久佐(おしくさ)

地榆/地榆 俗名・和礼毛加宇(われもこう)

紫參/俗名・由幾布亭曾宇(ゆきふでそう)

王孫/王孫 俗名・於尔乃末由波木(おにのまゆ

はき)

紫草/紫草 俗名・無良佐木(むらさき)

白頭翁/白頭翁 俗名・比女波奈(ひめばな)

祢古久佐(ねこくさ)
是我以曾宇(ぜがいそつ)

白及/白及 俗名・志羅無(しらん)

三七/三七 俗名・也未宇流之(やまうるし)

黄連/黄連 俗名・加久未久佐(かくまぐさ)

黄連/右黄連俗名・芹葉黄連

黄連/右黄連俗名・大葉黄連

黄連/右黄連俗名・小葉黄連

黄連/右黄連俗名・菊葉黄連

黄連/右黄連俗名・五加葉黄連

黄芩/

秦艽/秦艽 俗名・都加里久佐(つかりぐさ)

秦艽/秦艽 俗名・波加里久佐(はかりぐさ)

秦艽/秦艽 俗名・都加里久佐(つかりぐさ)

秦艽/秦艽 俗名・波加里久佐(はかりぐさ)

苳胡/苳胡 俗名・阿未安加奈(あまあかな)

苳胡/苳胡 俗名・阿未安加奈(あまあかな)

前胡/前胡 俗名・太尔世里(たにぜり)

乃世里(のぜり)

【第三册】草部三

防風 漢種/

防風 和産/防風 俗名・夜末尔無志無(やまにんじん)

加波良尔無志無(かわらにんじん)

夜末世里(やませり)

石防風/

石防風/

石防風/

独活/独活 俗名・宇止(うとど)

宇止奈(うとどな)

羌活/羌活 俗名・志志宇止(ししうとど)
宇止毛度木(うとどもどき)

羌活 漢種/

升麻/升麻 俗名・阿和保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

升麻/升麻 俗名・阿波保(あわぼ)

【第四册】草部四

水仙/水仙 俗名・尔波岐

白茅/白茅 俗名・豆波奈(つばな)

芒/芒 俗名・須須木(すすき)

龍膽/龍膽 俗名・里牟多宇(りんどう)

龍膽/龍膽 俗名・都流里牟多宇(つるりんどう)

龍膽/龍膽 俗名・都流里牟多宇(つるりんどう)

細辛/細辛 俗名・賀茂阿布比(かもあおい)

細辛/右細辛俗名・宇須波細辛(うすばさいしん)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/右杜衡俗名・木豆加宇

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

杜衡/杜衡 俗名・美夜末奴奈和(みやまぬなわ)

徐長卿/徐長卿 俗名・布奈波良(ふなばら)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

白微/白微 俗名・久呂倍無介以曾宇(くろべん)

拳参 / 拳参 俗名・恵比久佐(えびぐさ)
伊布木止良乃於(いぶぎとらのお)

【第五册】草部五

当帰 / 当帰 俗名・夜末世里(やまぜり)
於保世里(おおぜり)
芎藭 / 芎藭 俗名・宇之久佐(うしくさ)
蛇牀 / 蛇牀 俗名・也布之良美(やぶじらみ)
藁本 / 藁本

白芷 / 白芷 俗名・宇末世里(うまぜり)
芍薬 / 芍薬 俗名・加保与久佐(かおよくさ)
芍薬 / 芍薬 俗名・久佐芍薬
牡丹 / 牡丹 俗名・布賀美久佐(ふかみくさ)
牡丹 / 牡丹 俗名・波豆加久佐(はつかくさ)

木香 / 木香
草茛 / 草茛
高良薑 / 高良薑
益智子 / 益智子
鬱金 / 鬱金
莪朮 / 莪朮
莪朮 / 莪朮

三稜 / 三稜 俗名・宇幾也加良(うきやがら)
莎草香附子 / 莎草香附子 俗名・波未須介(はますげ)

瑞香 / 瑞香 俗名・茲牟知也宇計(じんちようげ)

【第六册】草部六
茉莉 / 茉莉 俗名・末里久和(まりか)
豆蔻 / 豆蔻
豆蔻 / 豆蔻

藿香 和産 / 和産藿香與本草所説形状符号 但不
及漢産者至枯槁香尤芬薫耳
零陵香 和産 / 和産零陵香茎葉與諸説合 但香不
甚高蓋下品也

蘭草 / 蘭草 俗名・布知波賀満(ふじばかま)
沢蘭 / 沢蘭 俗名・志呂祢(しろね)
馬蘭 / 馬蘭 俗名・古牟木久(こんぎく)
香薷 / 香薷 俗名・奈木奈多加宇志由(なぎなたこうじゆ)

石香薷 / 石香薷 俗名・伊奴加宇志由(いぬこうじゆ)
爵牀 / 爵牀 俗名・加宇志由多満志(こうじゆだまし)

荊芥 / 荊芥 俗名・乃乃恵(ののえ)
薄荷 / 薄荷 俗名・女久佐(めぐさ)
石薄荷 / 石薄荷
薄荷 / 薄荷 俗名・女薄荷

積雪草 / 積雪草 俗名・豆保久佐(つぼくさ)
蘼 / 蘼 俗名・志曾(しそ)
花紫蘼 / 花紫蘼
蘼 異品 / 右蘼俗名・安於志曾(あおしそ)
荏 / 荏 俗名・恵(え)
恵古末(えこま)

【第七册】草部七
菊 / 菊 俗名・加和良於波岐(かわらおはぎ)
白菊 / 白菊
苦蕒 / 苦蕒 俗名・乃岐久(のぎく)
菴藷 / 菴藷 俗名・布佐岐久
薯 / 薯 俗名・波古呂毛曾宇(はころもそう)

艾 / 艾 俗名・與毛木(よもぎ)
茵陳蒿 / 茵陳蒿 俗名・加和良與毛木(かわらよもぎ)
青蒿 / 青蒿 俗名・加良與毛木(からよもぎ)
黃花蒿 / 黃花蒿
白蒿 / 白蒿 俗名・之路與毛木(しろよもぎ)
陰地厥 / 陰地厥 俗名・比加計乃和良比(ひかげのわらび)

九牛草 / 九牛草 俗名・伊和岐久(いわぎく)
波末岐久(はまぎく)

茺蔚 / 茺蔚 俗名・米波之岐(めはじき)
夏枯草 / 夏枯草 俗名・宇都保久佐(うつぼくさ)
旋覆花 / 旋覆花 俗名・於久流末(おぐるま)
青柏 / 青柏 俗名・乃介以止宇(のげいとつ)
布亭介以止宇(ふでけいとつ)

桃朱術 / 桃朱術 俗名・也布計末牟(やぶけまん)
陶珠術 / 陶珠術 俗名・岐介以止宇(きけいとつ)
雁来紅 / 雁来紅 俗名・波介以止宇(はげいとつ)
雞冠 / 雞冠 俗名・介以止宇(けいとつ)
雞冠 / 雞冠 俗名・志呂介以止宇(しろけいとつ)
紅藍花 / 紅藍花 俗名・久礼乃波奈(くれのはな)
倍爾乃波奈(べにはな)

【第八册】草部八
薊 / 薊 俗名・阿佐美(あざみ)
薊 / 薊 俗名・阿佐美(あざみ)
統断 / 統断 俗名・於止里佐宇(おどりそう)
苦笑 / 苦笑 俗名・女阿佐美(めあざみ)

飛廉／飛廉 俗名・於尔末由波木（おにまゆはき）

芋麻／芋麻 俗名・加良牟之（からむし）

茴麻／茴麻 俗名・伊知比（いちび）

胡蘆巴／

蠹実／蠹実 俗名・婆里牟（ばりん）

惡実／惡実 俗名・吳暮宇（こぼう）

牛蒡根／

藜耳／藜耳 俗名・於奈毛美（おなもみ）

天名精／天名精 俗名・夜布多波古（やぶたばこ）

豨薺／豨薺 俗名・女奈毛美（めなもみ）

蘆／蘆 俗名・與之（よし）

蘆／蘆 俗名・與之（よし）

荻／荻 俗名・平木（おぎ）

簾／簾 俗名・於登古與之（おとこよし）

甘蕉／甘蕉 俗名・波世乎（ばしゅう）

紅蕉／紅蕉 俗名・眉慈牟世乎（びじんそ）

藟荷／藟荷 俗名・女平賀（みょうが）

木賊／木賊 俗名・止久佐（とくさ）

問荊／問荊 俗名・須木奈（すぎな）

問荊／右問荊俗名・波未止久佐（はまどくさ）

燈心草／燈心草 俗名・伊久佐（いぐさ）

【第九冊】草部九

地黄／地黄 俗名・佐於比女（さおひめ）

地黄／地黄 俗名・佐於比女（さおひめ）

牛膝／牛膝 俗名・為乃久豆知（いのくすぢ）

牛膝／牛膝 俗名・為乃久豆知（いのくすぢ）

紫苑／紫苑 俗名・於尔乃之古久佐（おにのしこくさ）

之乎迦（しおに）

麦門冬／麦門冬 俗名・世宇加比介（じょうがひげ）

麦門冬／麦門冬 俗名・世宇加比介（じょうがひげ）

萱草／萱草 俗名・和須礼久佐（わすれぐさ）

淡竹葉／淡竹葉 俗名・佐佐久佐（ささくさ）

鴨跖草／鴨跖草 俗名・阿於波奈（あおばな）

豆由久佐（つゆくさ）

葵／葵 俗名・加牟阿布比（かんあおい）

蜀葵／蜀葵 俗名・阿布比（あおい）

錦葵／錦葵 俗名・世尔阿布比（せにあおい）

黃蜀葵／黃蜀葵 俗名・登呂呂（とろろ）

龍葵／龍葵 俗名・古奈須美（こなすび）

宇之保宇豆木（うしほおすき）

龍珠／龍珠 俗名・夜未保宇豆木（やまほおすき）

酸漿／酸漿 俗名・保宇豆木（ほおすき）

酸漿 異品／右異品酸漿俗名・都流保宇豆木（つるほおすき）

敗醬／敗醬 俗名・於美奈倍之（おみなえし）

敗醬／右白花敗醬俗名・於止古倍之（おとこべし）

迎春花／迎春花 俗名・和宇波以（おつぱい）

【第一〇冊】草部十

欸冬／欸冬 俗名・布木（ふき）

鼠鞠草／鼠鞠草 俗名・保宇古久佐（ほつこくさ）

決（決）明／決（決）明 俗名・伊多知佐左介（いたちささげ）

馬蹄決明黃昏之圖

苳苳／苳苳 俗名・世牟太以波木（せんだいはき）

地膚／地膚 俗名・波波幾木（ははきぎ）

瞿麥／瞿麥 俗名・奈天之古（なでしこ）

王不留行／

剪春羅／剪春羅 俗名・加牟比（がむび）

剪紅紗花／剪紅紗花 俗名・世牟乃宇（せんのう）

金盞花／金盞花 俗名・幾牟世無久和（きんせんか）

車前／車前 俗名・於保波古（おおばこ）

車前／車前 俗名・於保波古（おおばこ）

車前／右車前俗名・波波木車前

車前／右車前俗名・夜久良於保波古（やぐらおおばこ）

馬鞭草／馬鞭草 俗名・久末豆豆良（くまつじら）

女青／女青 俗名・也伊登久佐（やいとぐさ）

鼠尾草／鼠尾草 俗名・波留乃多牟良曾宇（はるのたむらそう）

鼠尾草／鼠尾草 俗名・阿木乃多牟良曾宇（あきのたむらそう）

狼把草／狼把草 俗名・佐布良宇（さぶらう）

狗尾草／狗尾草 俗名・惠乃古久佐（えのこくさ）

鱧腸／鱧腸 俗名・多加佐布良宇（たかさぶらう）

耆婆左牟良以曾宇（ぎばさんらいそう）

伊知夜久佐（いちやぐさ）

連翹／

陸英／陸英 俗名・曾久豆（そくす）

【第一一冊】草部十一

藍／藍 俗名・阿伊（あい）

蓼／蓼 俗名・多亭（たて）

芫青蓼／

芫青蓼／

芫青蓼／

尖葉青蓼

馬蓼 / 馬蓼 俗名・以沼多亭(いぬたで)

香蓼

葳草 / 葳草 俗名・介多亭(けたで)

海根 / 海根 俗名・美豆比木(みずひき)

三白草 / 三白草 俗名・加多之呂久佐(かたしろ)

波牟介曾宇(はんげしよ)

虎杖 / 虎杖 俗名・伊太止里(いたどり)

蕭蓄 / 蕭蓄 俗名・尔和夜奈木(にわやなぎ)

蕭草 / 蕭草 俗名・加里也須(かりやす)

沙苑蒺藜 / 沙苑蒺藜 俗名・幾都祢止布

多布止

穀精草 / 穀精草 俗名・保之久佐(ほしくさ)

海金沙 / 海金沙 俗名・加尔久佐(かにくさ)

半邊蓮 / 半邊蓮 俗名・加良久佐(からくさ)

紫花地丁 / 紫花地丁 俗名・須美礼久佐(すみれ)

鬼針草 / 鬼針草 俗名・於尔波里(おにばり)

見腫消 / 見腫消 俗名・波流多末(はるたま)

【第一二冊】草部十一

菟糸子 / 菟糸子 俗名・祢奈之加豆良(ねなしか)

北五味子 / 漢種 / 北五味子 俗名・和多布知

南五味子 / 南五味子 俗名・作祢加豆良(さねか)

蓬累 / 蓬累 俗名・布由伊知古(ふゆいちこ)

覆盆子 / 覆盆子 俗名・和世伊知古(わせいちこ)

蘆 / 蘆 俗名・阿之久多之伊知古(あしくだしこ)

蛇母 / 蛇母 俗名・部比伊知古(へびいちこ)

使君子 / 使君子 俗名・久知奈之加都良(くちな)

馬兜鈴 / 馬兜鈴 俗名・牟末乃須須(うまのすず)

牽牛子 / 牽牛子 俗名・阿佐加保(あさがお)

白牽牛子 / 白牽牛子 俗名・知也宇之阿佐加保

旋花 / 旋花 俗名・比流加保(ひるがお)

旋花 / 旋花 俗名・比流加保(ひるがお)

紫葳 / 紫葳 俗名・乃宇世牟加豆良(のうぜんか)

牆藤 / 牆藤 俗名・伊婆良(いばら)

月季花 / 月季花 俗名・知也宇志由牟(ちようし)

栝楼 / 栝楼 俗名・宇之古布里(うしこぶり)

末流古布里

【第一三冊】草部十三

王瓜 / 王瓜 俗名・多末豆佐(たまずさ)

葛 / 葛 俗名・久須(くす)

天門冬 / 天門冬 俗名・須倍留久佐(すべるくさ)

何首烏 / 何首烏 俗名・比波於古之

草薺 / 草薺 俗名・止古路(ところ)

拔契 / 拔契 俗名・佐留止里伊波良(さるとりい)

土茯苓 漢 / 土茯苓 琉球 / 土茯苓

白斂 漢種 / 白斂 俗名・加加美久佐(かがみく)

千金藤 / 千金藤 俗名・波加末加豆良(はかまか)

山豆根 / 山豆根 俗名・末米豆留(まめづる)

威靈仙 / 威靈仙 俗名・久加伊曾宇(くがいそう)

茜草 / 茜草 俗名・阿加祢(あかね)

防己 / 防己 俗名・阿於豆良(あおつづら)

通草 / 通草 俗名・阿計比(あけび)

釣藤 / 釣藤 俗名・加良須乃加宜(からすのかぎ)

白英 / 白英 俗名・比與登里志也宇古(ひよどり)

蘿摩 / 蘿摩 俗名・賀賀以毛(ががいも)

烏薺母 / 烏薺母 俗名・也布加良之(やぶがらし)

比牟保宇加豆良(びんぼ)

葎草 / 葎草 俗名・加奈牟久良(かなむぐら)

絡石 / 絡石 俗名・亭以加加豆良(ていかかすら)

木蓮 / 木蓮 俗名・伊多比(いたび)

地錦 / 地錦 俗名・都太(つた)

地錦 / 地錦 俗名・末留婆都太(まるばつた)

地錦 / 地錦 俗名・美都婆都太(みつばつた)

扶芳藤 / 扶芳藤 俗名・末佐木乃加豆良(まさき)

常春藤 / 常春藤 俗名・木豆太(きづた)

千歲藥 / 千歲藥 俗名・都留阿未知也(つるあま)

忍冬 / 忍冬 俗名・須比可豆良(すいかずら)

忍冬 / 忍冬 俗名・須比可豆良(すいかずら)

忍冬 / 忍冬 俗名・須比可豆良(すいかずら)

忍冬 / 忍冬 俗名・須比可豆良(すいかずら)

南藤 / 南藤 俗名・布宇度宇加豆良 (ふうどつか)

ずら)

紫藤 / 紫藤 俗名・布知 (ふじ)

折傷木 /

【第一五冊】草部十五

大黃 漢 / 大黃 俗名・於保之 (おおし)

羊蹄 / 羊蹄 俗名・志乃祢 (しのね)

幾之幾之 (ぎしぎし)

酸模 / 酸模 俗名・須加無保宇 (すかんぼう)

商陸 / 商陸 俗名・夜末古波宇 (やまこぼう)

防葵 / 防葵 俗名・保多牟仁牟志牟 (ぼたんにん)

じん)

蘭茹 /

大戟 / 大戟 俗名・止宇多以久佐 (とつだいぐさ)

沢漆 / 沢漆 俗名・須須布里波奈 (すずぶりばな)

甘遂 / 甘遂 俗名・奈都止宇多以 (なつとつだい)

統随子 / 統随子 俗名・阿是止宇奈 (あぜとうな)

雲実 / 雲実 俗名・志也都介豆伊婆良 (じやくつ

いばら)

蓖麻 / 蓖麻 俗名・止宇古麻 (とつこま)

常山 海州 / 常山 俗名・久佐岐 (くさぎ)

藜蘆 / 藜蘆 俗名・志由路曾宇 (しゆるそう)

木藜蘆 / 木藜蘆 俗名・宇玆久佐 (うじくさ)

附子 / 附子 俗名・止里加布止 (とりかぶと)

附子 漢種 / 附子 俗名・止里加布止 (とりかぶ

と)

虎掌 / 虎掌 俗名・也布古無尔也久 (やぶこんに

やく)

虎掌 / 虎掌 右虎掌俗名・波久奈無世宇

蒟弱 / 蒟弱 俗名・古牟尔也久 (こんにやく)

半夏 / 半夏 俗名・可良須比志也久 (からすびし

やく)

半夏 / 半夏 右半夏俗名・大葉半夏

半夏 / 右半夏俗名・紫花半夏

【第一六冊】草部十六

射干 / 射干 俗名・比阿布木 (ひおうぎ)

鳶尾 / 鳶尾 俗名・以知波都 (いちばつ)

玉簪 / 玉簪 俗名・岐保宇之 (ぎぼうし)

玉簪 / 玉簪 俗名・岐保宇之 (ぎぼうし)

玉簪 / 玉簪 俗名・岐保宇之 (ぎぼうし)

鳳仙 / 鳳仙 俗名・豆末久礼奈以 (つまくれなひ)

曼陀羅花 / 曼陀羅花 俗名・知也宇世牟阿佐賀保

(ちようせんあさが

お)

羊躑躅 / 羊躑躅 俗名・幾礼牟介 (きれんげ)

芫花 / 芫花 俗名・佐都末布知 (さつまふじ)

蕘花 / 蕘花 俗名・夜末加曾 (やまかぞ)

醉魚草 / 醉魚草 俗名・布知宇都木 (ふじうつぎ)

莽草 / 莽草 俗名・志岐美 (しきみ)

茵芋 / 茵芋 俗名・美夜末志岐美 (みやましきみ)

石籠肉 / 石籠肉 俗名・多世里 (たぜり)

毛茛 / 毛茛 俗名・牟末乃阿之加太 (うまのあし

がた)

牛扁 / 牛扁 俗名・布宇路宇曾宇 (ふうろそう)

蓴麻 / 蓴麻 俗名・以良久佐 (いらくさ)

由奈久佐

釣吻 / 釣吻 俗名・豆太宇流之 (つたうるし)

【第一七冊】草部十七

沢瀉 / 沢瀉 俗名・佐玆於毛多加 (さじおもだか)

末留佐玆於毛多加 (まるさじ

おもだか)

薺草 / 薺草 俗名・保曾佐玆於毛多加 (ほそさじ

おもだか)

阿宜奈之

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

菖蒲 /

美都加之和（みつがしわ）

【第一八冊】草部十八

石斛／

石葦／石葦 俗名・比登都波（ひとつば）

石葦 異品／石葦俗名・伊和於毛多加（いわお

もだか）

金星草／金星草 俗名・可良比登都婆（からひと

つば）

石長生／石長生 俗名・與女加波婆幾（よめがは

はき）

奴里波之曾宇（ぬりばし

そつ）

景天／景天 俗名・倍牟計以曾宇（べんけいそつ）

仏甲草／仏甲草 俗名・都米礼牟介（つめれんげ

仏甲草 大葉／仏甲草 俗名・伊和礼牟介（いわ

れんげ）

仏甲草 異品／

虎耳草／虎耳草 俗名・由幾乃志太（ゆきのした）

石胡荽／石胡荽 俗名・波奈比里久佐（はなひり

ぐさ）

酢漿草／酢漿草 俗名・加多婆美（かたばみ）

酢漿草 大葉／酢漿草 俗名・加多婆美（かたば

み）

酢漿草 小葉／酢漿草 俗名・加多婆美（かたば

み）

地錦／地錦 俗名・爾之幾久佐（にしきぐさ）

仙人掌草／仙人掌草 俗名・亭牟婆曾宇

仙人掌草 細葉／仙人掌草 俗名・亭牟婆曾宇

陟釐／陟釐 俗名・加和毛豆久（かわもずく）

地衣草／地衣草 俗名・古計（こけ）

卷栢／卷栢 俗名・伊和比婆（いわひば）

【第一九冊】草部十九

韭／韭 俗名・尔良（にら）

韭 水生／韭 俗名・美豆尔良みずら

冬葱／冬葱 俗名・比止毛之（ひともし）

栲木（ねぎ）

漢葱／漢葱 俗名・祢布加（ねぶか）

胡葱／胡葱 俗名・阿佐豆木（あさずき）

薤／薤 俗名・良豆幾也宇（らつきょう）

蒜／蒜 俗名・尔無仁久（にんにく）

比流（ひる）

山蒜／山蒜 俗名・乃比流（のびる）

芸薑／芸薑 俗名・阿布良奈（あぶらな）

薤薑類／右薤薑俗名・布由奈（ふゆな）

箭稈菜／箭稈菜 俗名・都介菜（つげな）

久幾奈（くきな）

水菜／水菜 俗名・美豆奈（みずな）

芥／芥 俗名・加良之（からし）

【第二〇冊】草部二十

蕪菁／蕪菁 俗名・加布良（かぶら）

蕪菁／蕪菁 俗名・天牟和宇之加布良（てんのう

じかぶら）

萊菔／萊菔 俗名・保保祢（おおね）

太以古牟（だいこん）

萊菔 異品／右萊菔俗名・波多奈太以古牟（はだ

なだいこん）

萊菔／右萊菔俗名・美也志計太以古牟（みやしげ

だいこん）

生薑／生薑 俗名・波之加美（はじかみ）

同蒿／同蒿 俗名・志由牟幾久（しゆんぎく）

胡荽／胡荽 俗名・古患牟止呂（こえんどろ）

胡蘿蔔／胡蘿蔔 俗名・仁牟志牟（にんじん）

幾太以古牟

水蘄／水蘄 俗名・世里（せり）

藿香／藿香 俗名・久礼乃於毛（くれのおも）

羅勒／羅勒 俗名・米波波木

【第二一冊】草部二十一

菠薐／菠薐 俗名・保宇礼牟曾宇（ほうれんそう）

薺菜／薺菜 俗名・都留奈（つるな）

以曾賀木（いそかき）

茶菜／茶菜 俗名・止宇知佐（とちざさ）

茶菜／茶菜 俗名・止宇知佐（とちざさ）

薺／薺 俗名・奈豆奈（なずな）

苜蓿／苜蓿 俗名・於尔奈豆奈（おになずな）

於止古奈豆奈（おとこなずな）

繁縷／繁縷 俗名・波古倍（はこべ）

鷄腸草／

苜蓿／苜蓿 俗名・末古也之（まこやし）

白莧／白莧 俗名・比由（ひゆ）

紫莧／紫莧 俗名・比由（ひゆ）

馬齒莧／馬齒莧 俗名・須倍里比由（すべりひゆ）

高苗／高苗 俗名・知佐（ちさ）

蒲公英／蒲公英 俗名・多牟保保（たんぼぼ）

落葵／落葵 俗名・都類牟良佐幾（つるむらさき）

【第二二冊】草部二十二

藪／藪 俗名・玆宇也久（じゅうやく）

度久多美（どくだみ）

蕨／蕨 俗名・和良比（わらび）

翹揺／

鹿藿／鹿藿 俗名・夜布末米(やぶまめ)

灰藿／灰藿 俗名・阿加佐(あかざ)

藜／藜 俗名・於保阿加佐(おおあかざ)

芋／芋 俗名・伊毛(いも)

芋／芋 俗名・登宇乃伊毛(とうのいも)

土芋／土芋 俗名・保度(ほど)

薯蕷／薯蕷 俗名・也未乃伊毛(やまのいも)

零余子／零余子 俗名・沼加古(ぬかこ)

甘藷／甘藷 俗名・佐都末伊毛(さつまいも)

百合／百合 俗名・佐佐由里(ささゆり)

山丹／山丹 俗名・比米由里(ひめゆり)

卷丹／卷丹 俗名・於丹由里(おにゆり)

草石蚕／草石蚕 俗名・知與呂幾(ちよろぎ)

【第二三冊】草部二十三

茄／茄 俗名・奈須比(なすび)

水茄／水茄 俗名・奈賀奈須比(ながなすび)

青茄／青茄 俗名・阿於奈須比(あおなすび)

青水茄／青水茄 俗名・阿於奈賀奈須比(あおな
がなすび)

青水茄／青水茄 俗名・阿於奈賀奈須比(あおな
がなすび)

白茄 初白後黄／白茄 俗名・志路奈須比(しろな
すび)

壺盧／壺盧 俗名・布久部(ふくべ)

壺盧／壺盧 俗名・由布加保(ゆづがほ)

苦瓠／苦瓠 俗名・尔賀比佐久(にがひさく)

苦瓠／苦瓠 俗名・比夜宇多牟(ひょうたん)

小者 世牟奈里比夜宇多牟
(せんなりびょうたん)

冬瓜／冬瓜 俗名・加毛布里(かもつり)

南瓜／南瓜 俗名・暮於布良(ぼうふら)

番南瓜／番南瓜 俗名・加暮知也(かぼちや)

小者 登宇奈須(とうな
す)

越瓜／越瓜 俗名・志呂布里(しろつり)

胡瓜／胡瓜 俗名・幾布里(きゅうり)

系瓜／系瓜 俗名・倍知末(へちま)

苦瓜／苦瓜 俗名・礼以志(れいし)

【第二四冊】草部二十四

甜瓜／甜瓜 俗名・末久和(まくわ)

甜瓜／甜瓜

甜瓜／甜瓜

甜瓜／甜瓜

甜瓜／甜瓜

菜瓜／菜瓜 俗名・末留都計布里(まるとけつり)

馬鞍兒／馬鞍兒 俗名・須須米布里(すずめつり)

西瓜／

西瓜／

葡萄／

蓼蓂／蓼蓂 俗名・衣比豆留

甘蔗／甘蔗 俗名・佐登宇幾比(さとうきび)

蓮藕／蓮藕 俗名・波知須(はちす)

蓮根／蓮根 俗名・波須乃称(はすのね)

芡実／芡実 俗名・比之(ひし)

芡实／芡实 俗名・於尔波須(おにはす)

三豆布木(みずぶき)

烏芋／烏芋 俗名・久呂久和惠(くろくわえ)

慈姑／慈姑 俗名・久和惠(くわえ)

慈姑／慈姑 俗名・於毛多加(おもたか)

慈姑／慈姑 俗名・於毛多加(おもたか)

【第二五冊】草部二十五

胡麻／

大麻／大麻 俗名・阿佐(あさ)

小麦／小麦 俗名・古牟幾(こむぎ)

稗麦／稗麦 俗名・波太加牟幾(はだかむぎ)

雀麦／雀麦 俗名・須須牟幾(すずむぎ)

蕎麦／蕎麦 俗名・曾波(そば)

稻／稻 俗名・伊称(いな)

稷／稷 俗名・幾比(きび)

古幾

蜀黍／蜀黍 俗名・毛呂古之(もろこし)

玉蜀黍／玉蜀黍 俗名・登宇毛呂古之(とうもろ
こし)

粟／粟 俗名・阿和(あわ)

稭子／稭子 俗名・以沼比惠(いぬひえ)

稗子／稗子 俗名・比惠(ひえ)

薏苡／薏苡 俗名・登宇牟幾(とうむぎ)

粳糲／粳糲 俗名・志由須多麻(じゆすだま)

嬰子粟／嬰子粟 俗名・介之(けし)

嬰粟 矮生者称麗春花／右嬰粟俗名・比茲牟曾宇
(びじんそう)

【第二六冊】艸本別録上

加仁都里久佐(かにつりくさ) / 古人充海金沙
未詳

也布女於賀(やぶみょうが) / 充杜若或為縮砂
未詳

都里加祢波奈(つりがねばな) / 為真齋鹿 未詳

多伊古牟曾宇(だいこんそう) / 充龍牙或為狼牙

未詳

於女幾 / 充葛岩或為鬼臼 未詳
都流牟女毛止木 (つるつめもどき) / 充南藤 未詳

牟佐之阿布美 (むさしあぶみ) / 為由跋 未詳

由幾毛知曾宇 (ゆきもちそつ) / 為由跋異品又充 未詳

都久波曾宇 (つくばそつ) / 為筑波秦苧 未詳

知也良牟 (ちやらん) / 充素馨 未詳

幾須計 (きすげ) / 充仙茅 未詳

和宇之波久末 / 充鬼督郵 未詳

幾知茲曾宇 (きちじそつ) / 充千里及 未詳

乃布牟登宇 / 充茫茫決明 未詳

久和賀多曾宇 (くわがたそつ) / 為丹參 未詳

志也知久曾宇 (しやくそつ) / 為半邊蓮 未詳

也久瑠末曾宇 (やくるまそつ) / 充鬼臼 未詳

【第二七冊】艸本別録下

波奈志乃布 (はなしのぶ) / 古人充白鮮 未詳

波都由里 (はつゆり) / 為王孫或充旱藕 諸説区々而未詳

美曾波幾 (みそはぎ) / 充鼠尾草 不詳 此者即千屈菜

於止幾里 (おとぎり) / 充劉寄奴 未詳

比也宇乎止木里 / 為大葉劉寄奴 未詳

水生乎止木里 / 為水生劉寄奴 未詳

奈加佐之於止幾里 / 為穿葉劉寄奴 未詳

種 雖充劉寄奴未詳

幾久與宇 / 呼菊葉常山 未詳

阿末奈 (あまな) / 充山慈姑 未詳

久佐志毛都計 (くさしもつけ) / 為異品升尸 未詳

比木與毛木 (ひきよもぎ) / 充莢蒿 未詳

志宇女以幾久 (しゅうめいぎく) / 充漏廬 未詳

世牟布里曾宇・止宇夜久 (せんぶりそつ・とつや) / 充胡黃連或為龍膽 未詳

登佐加乃里 (とさかのり) / 為雞冠菜 未詳

止古呂天牟久佐 (ところてんぐさ) / 充石花菜 未詳

【第二八冊】庶物類纂図翼添書

安永七戌年四月 小普請組戸田要人儀藥草之図式拾卷余相認差上申度旨 右要人儀石谷淡路守江兼々懇意二付 淡路守を以奥向江右図之内一卷差出候処 稲葉越中守より水谷但馬守を以植村左源次・植村左平太・田村元長江申通シ有之 右之図御用二相立候書二候哉

相糺可申上旨申渡有之 右一卷被相渡候二付私共三人得与一覽仕候処 少々本艸二符合不仕品茂相見候間 此分認直候上二而御書物庶物類纂二御添被置候ハ、菓草類形状御見合之節者御用二相立可然之旨申上候 左候ハ、要人江私共申談 形状認方不宜品者認為直候様二可仕旨 尤私共江相談候而認候上差上候様二可仕由 要人江茂被仰渡候段淡路守より申通有之候旨二付 要人江私共認方等相談候処 此節不残清書出来仕候二付 要人より差上申候 尤庶物類纂二御添被置候ハ、可然旨申上候二付 右菓草之図之題号庶物類纂図翼と相認申候 且又草木別録与題号相認有之候方之

図者 従前々本草者共漢名を付置候茂有之候得共 本草二符合不仕候間 此分別録二相認差上置申候 以上

安永八亥年四月

植村左源次
植村左平太
田村 元長

(公文書専門官)